

STAT

Page Denied



第十二輯 第一號

台灣再解放聯盟

一九四九年八月

- 一、完成台灣社會民主主義
- 二、實現自治治台
- 三、建設台灣民主共和國
- 四、要求蔣政權退出台灣
- 五、反對內戰進入台灣

(五)

味

故鄉

文藝

(四) 我等のサロケ.....

小前

(三) 台灣の地位問題を其他.....

(二) 企業は大企業か.....

字母

(一) 台湾に属する.....

民

(一) 新極東政策と台湾前途.....

社

目次

美國的新極東政策與台灣之前途

本月五日華盛頓發表對華白書和老大的華美外交關係記係、白書內容已然是宣明着所來的華美關係與將來的方向。

由些記述、我們明明白白的了解、三年來美國的對華政策即是要實現和平安定的中國、可

成爲在遠東的安定勢力！不幸！到了今天一切的努力都水泡之影似得去了。

我們尚記得明白馬帥·九次登廬、參加第一次政治協商會議、極力調停國共三閩·馬帥歸

任國務卿以後、在其政策上是採取歐洲第一主義、但尚無拋棄中國民主化之努力。這三年來

的美國對華政策方向可爲述次二個指針。

第一即是派遣魏得邁中將、積極的勸告國民黨改革內政。

一九四七年四月魏中將訪華中、特別招待、中國民主同盟張瀾氏、羅隆基氏和宋慶齡女史等民主人士、要請他們參加政府企圖中國政府之民主化。但事情的結果是弄出了一團糟、在

轉眼一看其內

— 1 —

— 9 —

爲個好的前例。
地位、而扶助各

印度、緬甸、

到、在這地域

獨善的軍閥、

同時魏元帥

中國內政改革

平行轄主任李

但是此種計

權之強化了蔣

當選副總統

機會登場。

第二的方針

腐敗而離開了

國民黨今日

溫柔政策所招

間是由其地理的構成有着一環共同的運命、若是其中之一受了侵略、其他諸家必會大受威脅。問題是諸家之間的、內的不幸之解決與相互間的團結之促進。

三、新極東政策與台灣

我們美麗的故鄉、今天被放在中國內戰的威脅下。

由第二次大戰的經驗、我們知道戰爭的破壞與殺戮是任何悲慘、無益而恐怖的。而受了內戰的破壞了後、我們台灣人是不會享受任何的利益。由文化的經濟的觀點、從其特殊性台灣必須由中國分離。

至今、由美國的極東政策放出來的國民政府可為張子之老虎。這是天賞賜我們台灣人的天時！

我們台灣人必須團結站起來之秋！

二·二八事件苦慘的經驗尚在我们的胸裡甚新。但二·二八是無謀之行動。歷史在着二八問走得那磨快。當時國民政府的國際地位與今天比較起來、可為一瀉千里之感。勿論、軍隊

或者是政府、其人心的搖動是明白得。

若是我們不站來、建設自主、自立、自強的台灣、中國內戰的災禍時一時、刻一刻由一部份的投機主義者招近我們的身邊。

若是我們台灣人、依台灣中心主義為前提、政治採取民主、經濟採取社會主義提高一般大眾的生活水準。不但是六百五十萬之幸福、必會受世界民主主義國家多大的同情和支持！



米國の新極東政策と台湾の前途

一、過去三年間に於ける米國の對華政策

今月五日ワシントン政府は、尤大な記録と共に對華白書を公開した。白書は戦争以來今日までの中美關係と、兩國間の將來を明らかにしたものである。

この記述に依つて、美國側が平和的な中國を實現し、遠東に於ける安定勢力たらしめんとして多大の努力をなして來たのであるが、不幸にしてそれは總て無駄に終つた。

マクシナル元帥が、九度盧山に登り第一次政治協商會議に参加して、國共間を調整せんとしたことは我々の記憶に尙新しい。中國より美國に國務卿として歸任したマクシナル元帥は、政策上に於ては歐洲第一主義を採つたけれども、中國の民主化に對して總てを抛棄しそのをばなかつた。我々は今日までの對華問題に對する美國側の態度を二つに分けて

一つは、ウエデマイヤ中將の派遣に依る國民黨に對する積極的な内政改善の勸告である。

一九四七年ウ中將が、訪華中、中國民主同盟の羅隆基氏、張瀾氏及び宋慶齡女史と會見し、これらの民主人士に、政府に参加して中國政府の民主化を企圖した。然し獨善的な、軍閥的色彩の濃い蔣政權の下にあつては、遂にそれも實現するに至らなかつた。同時にウ中將は台灣を視察して國民政府の惡政を指摘したが何等の改革を見ずに放置されて來た。

内政改革の線に依る努力は、最後にスチユアート大使を通じて總統、副總統選舉に於て現れた。つまり胡適氏を總統として登場せしめ、當時民主將軍として其の名を買はれた北平行轅主任李宗仁を副總統とし、中共に對して和平を提唱し、國民政府内部に對しては、反動人物の肅清を實現せんとした。

然しこの企画もC・C及び浙江財閥等、國民黨各部に巢喰ふ反動派の連中に依つて、反つて非常時總統大權と言ふ名目に依つて、蔣介石の獨裁權力を強化する結果となつた。副

總統に當選した李宗仁氏は、第二次政治協商會議の國民黨にとつて最大の危機の時迄北平に於て、碁盤にのみ對面する幽閑の客となつたのである。

第二の線は、消極的な對華援助削減に依つて、國民黨に國共妥協の方向を強いんとしたのである。勿論アメリカの對華援助額の多少を問はず、腐敗し切つて民心から離れた國民政府が、歴史的過程に於て尙生存しつゞけ得るとは思はれない。

國民黨の今日の狀況は既に豫測さるべきものだったのである。六百五十万島民の今日までの不幸はかゝる生ぬるい美國の對華政策によると申すも過言ではない。この最後の段階に至つて、ワシントン政府は、遂に對華白書を公開して、新極東政策の方針を明らかにするに至つた。

二、新極東政策の方向

對華白書に盛られた、美國新極東政策の方向は、蔣政權に對する援助の打ちめと、
地境に於ける防共線の建設とにあることは、

然し、防共に於ける施策は、單に既成勢力の統制力の強化に依つてのみ實現されるものとは思はれない。中國問題が良き前例であらう。

問題は、如何にして民主的な西南太平洋を建設するかであり、如何にして植民地的壓制に置かれた人々を、植民地的な課題から解放し、其の遅れたる産業を早急に近代化せしめることにある。

亞東に於ける、民族解放運動は、今や阻止し得ざる巨大な怒濤となつて居る。印度、パキスタン、印度支那諸島、ビルマ、台灣等、又幾多の解決されて居ない問題を含んで居る。

然も、これらの諸地域は海洋性に富み、十六世紀來の歴史に於て明らかなる如く、地理的に一環の共同的な運命を持つて居る。其の何れかが、侵略的な力に犯されたら、其の他の者は大きな脅威を受けるにちがいないのである。問題は、之等の諸國間の内的な苦惱の解決と相互間の團結力の促進如何である。

三、新極東政策と台灣

我等の郷土台灣は、今や中國内戦の脅威の前に曝されてゐる。

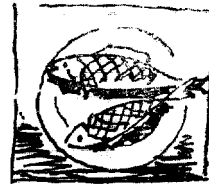
吾々は、第二次大戦によつて、戦争による破壊と、殺戮とが如何に無益で怖るべきものかをつぶさに体験した。そして内戦による破壊が、吾等台灣人に何らの利益をも齎らし得ないことは明らかである。そして文化的、經濟的観点から台灣の政治が、その特殊な性格によつて中國から切離されなければならないことも明らかである。

今や、美國の極東政策から切離された國民政府は、張子の虎に等しい。

今こそ吾等台灣人が團結して起つべき時である。二・二八事件の苦い經驗は吾等の胸に尙生々しい。然し二・二八當時は無謀に等しい行動であつた。歴史は二年間の中に大きな轉回をもたらした。當時の國民政府の國際的地位と、今日のそれは正しく一瀉千里の感がある。そして軍隊を問はず、政府を問はず、その人心の搖動は人目に明らかである。

吾々が、此の時に起ち上つて、自主、自立、自強の台灣を建設しなければ、内戦の災禍は一部の投機主義者によつて、刻一刻と吾々の身邊に近づきつゝあるのである。

台湾人が、台湾中心主義をモットーとし、政治は民主主義を取り、経済政策は大衆の生活水準を高め、社会主義を取ることは、六百五十万島民の幸福である許りでなく、世界の民主国家から多大の同情を以て支援されるであらう。



民主々義台灣の經濟建設

東 風

戦後のインフレーションによる經濟社會破壊の波は今や中國を一呑みに呑み盡さんとしてゐる。この歴史的一瞬の前に佇立して、我々台灣民衆の一員として如何なる信念を抱き如何なる認識を有するかを廣く同胞の前に披瀝しよう。

資本主義の黄金時代は第一次大戦を以て終熄を告げた。この大戦を契機としてイギリス労働黨はその基礎を確立し、ドイツは社會民主々義の旗を掲げた。然るに前者は一應成功し、後者は失敗すると共に一轉して極端な國家主義に走つた。ドイツ社會民主々義の基礎はマルクス主義の哲學であり、イギリス社會主義の場合は一種のヒューマニズムとも稱すべきものといふことが出来る。資本主義の矛盾、資本主義の罪惡に對する兩者の見解には、互に對照の相違があるかは顧る疑はしい。然るに其建設的な面になるとその間には大なる差異が認められる。ドイツ社會民主々義の公式論に對してイギリス社會主義は經濟社會を

一個の生きた存在として認識する。即ち民主主義に基づく自由と平等の二原則を圓滑に且つ平和裡に實現せんとするものである。具体的に云へば所有權の抑制生産手段の國有化を民主主義の基礎の上に實現せんとする。そして過渡期的現象としては私有企業と國有企業の併存を認め、徐々に議會に反映せられたる人民の意志によつて變革を計る。かくして今日のイギリス社會に於ける高度の文化水準を維持せんとするのである。

翻つて、我が台灣の現状を見れば、過去に於ける日本の植民地統治は五十年の長きに亘り、台灣の社會を徹底的な植民地社會と化した。即ち台灣經濟全体より見れば既に台灣の社會は初期資本主義の經濟機構を具備しつつあつたと云ふことが出来るが、遺憾ながら典型的な植民地統治の結果その政治經濟文化の組織は凡べて跛行的であつた。併しながら幸ひ相對的には或る程度の民主主義制度實現の基盤は整ひつつあつたのである。この事は一九二〇年代の台灣自治議會運動に於て既にその證左を辿ることが出来る。

然るに日本統治の終幕に踵を接して實施せられた中國統治は全く一幕の悲劇である。否

それは單なる悲劇と解するには余りにも深刻過ぎる。日本時代の總督制度はその儘受け繼がれた。そしてその植民地機構の骨組とも云ふべき官業專賣及び貿易統制は合理化せられるどころか、喧々囂々たる民衆の怨嗟の下にその獨占的横暴を極めた。土地建物の不動産は日本時代すでに七割以上が人民の手を離れてつたのであるが、その傾向は加速度的に強まつて行つたのである。かくの如き經濟基盤の上に立つて封建的な專制政治が企てられたのである。そこには民意の伸長すべき僅かな近代性にも欠けてをつた。人民の經濟は急迫し、教育は廢れ、衛生施設は荒廢に委せられた。

台灣の現状は即ち一步を誤れば千仞の谷底へ轉げ落ちる可能性を多分に包含するものである。即ち我々は今やマルクス主義的革命方式に従ふべきか、或は民主主義的な平和革命の方式を創造すべきかの何れかを選ぶべき岐路に到達してゐる。右すべきか左すべきかは我々の決意如何による。言ひ換へれば我々に出路ありや否やは一に擧つて我々が自主的に又自らの意志を以て我々人民の主權を回復し得るや否やに存する。若し人民の主權回復實

現の曉には自由と平等に基づける民主々義台灣の建設は期して待つべきものがある。何となれば民主々義社會實現の基盤は暴政によつて危機に瀕してはをるが未だ決して崩壊し去つた譯ではない。そして更に主要な事は我々台灣人民の進歩的革命分子が民主々義的台灣の建設に對して未だかつてないほどの熱情を以てその實現に向つて邁進しつゝあることである。

我々の當面する喫緊の問題は民族問題と經濟問題であると云ふことが出来る。民族問題は要約すれば人民の主權回復の問題と見ることが出来るが、その評論は別の機會に譲ることとし、こゝに於ては經濟問題に關し些かの所見を述べたい。

日本帝國主義時代の台灣は日本本土に奉仕する台灣であつた。その範圍内での台灣經濟發展は銳意促進せられた。中國統治になつてもこの經濟的な搾取關係は、日本本土を中國本土に切換へたに過ぎない。台灣人民の經濟的地位は依然として主人に奉仕する奴隸である。台灣産業の中核とも云ふべき糖業、電業、鑛業、化學工業等の諸生産機關は凡そ皆

源委員會及び省政府即ち本土官僚資本の代理人共の手にある。更にその經營の拙劣と人民の生産意欲阻害のため生産の量的質的低下は眼に見えて著しい。されば人民に對する經濟的壓迫の苦痛は益々甚しい。

論者曰く「台灣が假りに解放せらるゝとするもその經濟的自立は所詮不可能であらう」と。併しながら自立の可能不可能の問題は結局我々台灣人民が台灣經濟を圓滑に運營する力量ありや否やと云ふことである。我々に籍するに五ヶ年の平和を以てせよ。我々は台灣經濟の再建を立派に遂行してお目に掛けよう。我々には經營方面技術方面の有能なスタッフがないのではない。我々に必要なのは平和と民族の團結である。我々には封建的官僚もなければ獨占的大資本家もない。自由と平等の建國精神！この建國精神に従つて進むところ、そこには台灣の輝かしい將來がある。



台湾の歸屬について

健

三

この論文は、日本在住の台湾同胞に訴えようと思つて、書かれたものである。何故ならば、台湾在住の同胞のこの問題に對する考へと日本在住の同胞のそれが甚しくかけはなれてゐるからである。ここで、取り上げて申す迄もなく、台湾在住の同胞は、一日も早く台湾を中國から切り離し、台湾を「台湾人の」「台湾人の爲の」「台湾人に依る」島に實現しようとしているに反し、日本在住の同胞は台湾はあく迄中國と一身体であるとする者が多い様に思われる。この相違は、果してどこから來てゐるかを考えて見たいと思ふ。その主な原因は、台湾にいる同胞は、身を以て中國人の殘虐性、野蠻性を體驗し、そして、中國人が台湾にのぞむに、十九世紀的な搾取以外の何も無いことを知つたからである。その殘虐性、野蠻性は、一九四七年三月二十八日に起つた所謂二二八事件に依つて

それをうかゞい知ることが出来る。二十世紀の今日に於て、一定の裁判なしに、國家が人民の生命をたつことは、われ／＼には想像がつかないことである。併し中國人は、それを平氣で、台灣に於て、人民を大量虐殺したのである。しかも、その殺し方に至ては、聞いても身の毛がよだつ様なことをしたとの事である。その一例をあげるならば、或者は兩耳を切り落されて、車に乗せられて、街中を一巡して後殺されて了つたのである。次に彼等の十九世紀的な搾取に就ての實例をあげるのであるが、彼らは、建設の代りに、台灣を破壊し、大陸へものを持ち去つたのである。そして所謂四大財閥が台灣に君臨し、台灣の財界をさうじつている。そのとつている政策は、台灣をあく迄も植民地とみなし、現在の中國と台灣との經濟的・政治的關係は、恰もイギリス本國と獨立前のアイルランドのそれに似、また、イギリス本國と獨立前のアメリカのそれにも似ていともいえるのである。後者兩國とも封建的帝國主義的を廢制したまゝかわり、敢然と獨立したの事がある。アメリカの如きは長い「獨立戦争」に依り多くの血を流して自由を獲得した事は御承知の通りであ

る。これに反し、日本在住の同胞は、彼らの残虐性、野蠻性を体験していないし、また、彼らの搾取をもうけなかつたのである。かえつて、「虎の威をかる狐」の如く、中國人なる故に種々な利権を得たのである。

果してこれでよいであらうか。われ／＼は肉親の者を台湾に残して來てゐることを忘れてはならない。そして彼らの苦しみを共にわから、彼らと共に、自由を獲得すべく、最善をつくさなければならぬ。この様に考へて來て、われ／＼は理性に訴へ、客觀的に台湾の歸屬の問題を一緒に考へて見たいと思ふ。台湾の歸屬の問題を論ずるに當り、この問題を、單に中國對台湾の問題としてとり上げるだけでは、解決されないことは自明の理である。この問題は世界の問題の一環としてのみ解決が可能である。何故ならば台湾の歸屬問題は、台湾對國民政府、台湾對中共政府との關係であり、それがとりもなおさず、台湾對アメリカ、台湾對ソ聯との關係だからである。それは去る七月一日、中共の設立第二十八年周念に於て、毛澤東が發表した論文「人民による民主主義的獨裁について」の中に「全

後の中國の進む方向は、國際戦線を結成するためソ連と結び、ヨーロッパの新民主主義諸國と結び、更に他國のプロレタリアと人民大衆と手を組むことである。人は誰でも帝國主義側に傾くか、社會主義側に傾くか何れかであり、中道はカモフラージュである」に依て推察することが出来るであらう。即ち毛澤東の論文にもある如く、世界は米英側の率いる陣營につくか、ソ聯側の率いる陣營につくかだけである。即ち毛澤東の言が眞實であるならば、所謂新民主主義は目的達成の一つの方便に過ぎない事を吾々は認識しなければならぬ。そしてコミンホルム下におかれた國は最後にはソ聯的である事を知らなければならぬ。人はいうであらう。毛澤東は李立三と違いモスコウには従わないであらうと。もしも彼がモスコウに従わなければ彼は失格し彼に代るべきモスコウに忠實な僕が中國を支配することは火を見るより明かである。

第二次世界大戦前、世界の狀況を、日本の政治家が複雑怪奇といつて、もちろん兜

をぬいで、全閣僚の辭表をとりまとめて桂冠した事を皆様はおぼえていられるであろう。また少しきかのぼつて、日本の最も民主的な政治家といわれている尾崎學堂氏の議會に於ける演説を想起して見よう。彼は當時日本が獨伊と同盟を結ぶことに反對し右と左とは結局は同じものでその相違は紙一重であるといふ様な事を強調した。併し當時の日本は彼伊言葉に耳を傾けるには余りにも排他的であり獨善的であつた。その結果として日本は獨伊と三國同盟を締結した。併し幾何もなくしてヒットラーとスターリンが不可侵條約をむすぶに至り、前述の複雑怪奇の言葉が生れ出た譯である。この二者はそのイデオロギーに於て、彼らの率いる兩國家が不可侵條約を結ぶとは、誰一人としてその事前に信するものになかつたであろう。何故ならば極右と極左であるからである。水と油であるからである。併しこれら全体主義者達は自分の利益の爲にはどんな藝當でもやれるのである。そして結局は水はやはり水であり、油はやはり油であつて、第二次大戰の結果として、ナチは滅亡した譯である。ソ聯はまた日本とも不可侵條約を結んだ。そして第二次大戰終戦直前に事

前に日本政府に何らの通告もなく満洲に侵入し、持ち去れるあらゆる工業施設を満洲から強奪したのである。これら諸施設はやがて中共のものとなるべきものであることを中共支持者は知るべきである。かくして世界は好むと好まざるとに拘らず、ソ聯の率いる陣營とアメリカの率いる陣營に別れてしまつた譯である。これは前述の毛澤東の論文によつて明かである。しかも中共は世人が想像する様な、彼は第二のチトーとはならず、彼の前述の論文の中に「我々はソ連邦の主宰する反帝國主義戦線の一員であり、そして我々の期待するのはこの戦線から来る真に友好的援助であり、帝國主義戦線から来る援助ではない」とハッキリ色彩を明かにしているのである。そして民主主義國家と全体主義國家とは相入れないものであり、これら二つの國家群が存在する以上世界は當然どつちかにつかなければならないのである。この二つの國家群の根本的相違は民主主義國家群に於ては個人の權利生命を第一に重んずるに反し、全体主義國家群において個人の權利生命は國家の動員は塵芥と等しいのである。

中國が中共に依つて完全に征服されようとしている時、台灣の問題をもう一度じっくり考えることは有意義なことである。何故ならば中國の戦況の推移にまかせるならば、台灣は中共のものになり、從て台灣は「ソ連邦の主宰する反帝國主義戦線の一員」となるからである。我々はこゝであらゆる理性に訴え、あらゆる客觀的角度から觀察して、ソ連側につくべきか、或はアメリカ側につくべきかをきめなくてはならない。問題をこゝまで諸君と一緒に考へて來た筆者は、諸君の最もきつたがつている中共の性格を述べたく思う。中共が毛澤東のいうごとく、ソ連陣營の一員であるならば、中共はコミンホルムの決定した諸政策に従い、ソ連式の政治を行わなければならないことは當然すぎるほど當然のことである。故に中共の性格を論じようと思へば、ソ連のそれを論じ、これを諸君に知らせれば自ら諸君の疑問に答へることになる譯である。ソ連は鉄のカーテンの中の國であるといわれる。何故であろうか。自由がないからである。言論の自由のない所に人民の幸福を求めるとは、木によりて魚を求めると類である。故にソ連には共產黨以外には政黨がない。人

間である以上失策をやり間違いをやる事は當然のことである。政治からいえば、この様な人間の失策や間違いを矯正し、正しい方向にもつて行く爲には他の主張を異にした政黨が必要であり、また人民の眞の意志を表明する選挙が行われ、それに依つて爲政者をきめるべきである。併しソ聯陣營の全体主義國家、獨裁者の率いる國家群にはそれが無いのである。スターリンは數十年來の獨裁者である。彼が絶対に過ちを犯さない男であり、彼の政策が絶対に正しい故にかくも長く獨裁者たり得たのであろうか。彼も人間である以上否と答えざるを得ないのである。然らば、何故であらうか。答は簡單である。ソ聯は共產黨に反對する政黨の存在をゆるさないからである。祕密警察により反對者の生命を次から次へと葬り去つたからである。これを世人は「血の肅清」とよんでいる。敗戦前の日本の政治を憲兵政治というならば、ソ聯のそれは祕密警察の政治といえるのである。反對にアメリカやイギリスに於ては、誰でも政府に公然と反對の意見を發表出来るのである。そして政治が悪ければ、國民は自由に批判出来るが故に、悪い政治をやつた政黨は政權を擔當す

る資格を失うのである。それは公平な選挙に依つて、國民は自分の意志を發表することが出来る。全体主義國家に於てはたえず國外への政治亡命者がいる。これは自國にいると自分の生命が風前の燈の様に危いし、言論の自由が全くないからである。亡命者は自由のなかつた封建的なイギリスにもかつてはいた。併し二十世紀の今日には自由を愛する國家群にはそれがないのである。

次に台灣が中國の領土になつた場合、直接我々にひゞく毎日の衣食住の生活はどうなるかを考えて見よう。台灣は年々輸出超過の島である事は余りにも有名である。これは立派に獨立出来る事を意味する。故に台灣が完全に台灣人の台灣になつたならば、我々は世界の自立國家の中でも金持の方といふ得るのである。反對に中共の支配下に置かれた場合、台灣はあの日華事變並に内戦に依つて破壊し盡された中國本土再建の一翼を荷わされ、重い税金や、全体主義的搾取に百年は苦しむであろう。現在のソ聯の人民を見よ。ドイツや滿洲を占領した兵隊には時計や電燈や水道を始めて見た人のいかに多くあつた事よ。或者

は電燈で煙草に火をつけようとして、どうしても点かないので、怒つてそのランプを破つてしまつたという話をきく。これがソ連の實体である。そしてこれにより中共をうかゞい知る事が出来る。筆者は重ねて同胞諸君に訴える。須く現實的でない偏狹な民族主義を捨て、所謂大國民としてソ聯的な非文明人となり、きたない家に住み、まずい食事をし、スフ入りの服を着るよりも、小國民として毎日をたのしく暮せる民となるうではないか。

最後に、台灣が果して獨立する能力があるかどうかを検討して見よう。先ず文化の面からいうならば、台灣人は八十五%以上義務教育をうけ、字を讀み字を書くことが出来る。これは世界に誇つてよい事である。更に文字を、キリスト教的なローマ字にするならば、百%近くの人が讀み書き出来ると斷言してはぐからない。台灣のキリスト教ではむすかしい聖書や讚美歌は全部ローマ字である。そして台灣のクリスチャンは、老いも若きも、男も女も、ローマ字で文章を讀み、そして自分の意志を文字にていゝ表わす事が出来る。これはローマ字文學の勝利といわなければならない。醫者の數は、その人口に比して恐らく

世界で一位二位を争う位多い事は周知の通りである。次に人口の面から論ずるならば、スエーデンやデンマークの様な立派な國が大体台灣と同じ位の人口である。台灣より少し人口を有つてゐる國は世界には澤山あるのである。次に土地の面積や經濟能力であるが、土地の面積からいへばもしも諸君が世界地圖を見るならば、地球上にある數十國の獨立國の中、台灣は中位にある事を發見するであろう。經濟能力は先にも述べた通り我々は上位にあるのである。

以上の様に諸君と一緒に考へて來た筆者は台灣の歸屬の問題を諸君の自由意志にまかせ、他に道がない事を認めなくてはならない。筆者が論じて來た事を諸君が認識した上で、尙かつ台灣は中國の一部であると主張するならばそうするがよい。只こゝで忠告申し上げたいのは、終戦當時の轍をふまない様にとの事である。當時は台灣人の大部分、全部といつてもよいと思うが、民族的感情にのみとられて、現實を直視せず、祖國へ歸れるとよろこんだ事であつた。やがて台灣は國民黨政府に失望し、幻滅の悲哀を感じたのである。

台湾が失望するのは國民黨政府ばかりでなく、中共政府にもやがて失望する様になるであらう。何故ならば、中國自体が十九世紀以前の國であるからである。或面に於ては中世紀の域を脱していない。土地の面積と人口は世界の第一級に屬する國であらうが、文化、經濟衛生は第四級に屬するであらう。この様な國と二十世紀のレベルにある台湾が一緒にならなくてはならない理由はどこにあるであらうか。

(一九四九年八月十一日)



巨大企業は大きすぎるか

ヨーマン選出米上院議員

ジヨセフC・Oマホニー

アメリカの巨大企業は企業としても又アメリカとしても大きすぎるでせうか。

十^{セント}仙煙草の驚くべき物語を考へて見るがよい。標準品よりも低級な十仙煙草は數年前企業精神の旺盛な獨立の製造家が、多數のアメリカ人にとっては一仙でも節約すべきであるといふ考へから始められた。二年足らずの間アメリカの煙草の四分の一はこの安物煙草であつた。その後突然この安物煙草は無くなり、アメリカの喫煙家は標準品である比較的高價な煙草を喫はねばならなくなつた。

米國議會の小委員會の調査によれば、昨年消費者の要求に反して經濟的な煙草は煙草産業に於ける壓倒的な「三大會社」の壓力によつて排除されたといふ事實が證言せられてを

る。この三大會社がかくも壓倒的な地位を獲得した過程はアメリカ産業界に廣く起りつゝある典型的な事實である。(中略)

×

×

世界で最も獨占的なクラブは米國上院であると考へられ勝ちであるが實際はさうではなくて所謂「十億弗クラブ」が最も獨占的である。即ちこのクラブは米國諸會社中、十億弗以上の資産を有する會社をその會員としてゐるのである。

一九二九年にこのクラブには二十名の會員があつた。そして一九三九年に二十八名、一九四五年に四十名、今日では四十八名の會員を擁してゐる。これらの會社のあるものは、或る州の總人口よりも多數の従業員を擁してゐる。又或る會社はその總計資産に於て多くの州の純粹に個人的な財産の總計額を超過するものがある。

かくの如き會社が數に於ても又資産に於ても増加してをって國民はもはや市政府や州政府を通じてはそれらに對抗出来なくなつたので現在では方向を轉じて聯邦政府に向ひ、

企業經營陣が敢へて非難するところのソントン官僚政治を造り出してゐる。企業に於ける中央集権は政府に於ても中央權力を生みだすものである。

大統領に對する經濟顧問會の一九四八年度報告書には次の如く書かれてゐる。「市場の統制力は年々内的發展によると同時に小會社の吸収によつて大會社の手に移されつゝある。」我々の或るものは果して經濟的な盲点を持つてゐるのであらうか。成程我々は巨大な政府の存在を望まない。併しながら事實に於て我々が政府といふ問題に關して最も抗爭せねばならないのは、如何にすれば大多數の我々の企業組織の特色を反映せしめ得るかといふ事である。巨大政府による組織の普遍的統制を防ぐ一つのよい方法としては巨大企業による私的統制を防ぐことにあるのではないでせうか。

成程われわれは巨大組合の存在を望まない。併しながら巨大組合の發展は巨大企業に匹敵し得るのではないだらうか。即ち巨大組合のみが對等の基礎の上に於て巨大企業に對抗し得るのである。

我々は集産主義者―全体主義者！共産主義者、社會主義者の意圖するところのもの即ち自由競争を阻止し巨大な國家的規模に於ける獨占体を通じて統制するといふ意圖を排撃する。併しながらこれら集産主義者の意圖するところのものは、明らかに自由競争が既に弱体化せられ經濟が著しく巨大な私的獨占体によつて統制せられるやうな場合に於て達成され易いものである。

ムツソリーニはその全体主義經濟を稱して「協同体國家」と呼んだ。即ち國家が恰かも一つの巨大會社であるかの如くに經濟を管理するといふ意味である。獨逸はその巨大な産業上の或は財政上の集中化傾向のため容易にナチ集産主義の犠牲となり、又ナチに對してごく自然な基礎を提供したのである。英國經濟が私的獨占体やカルテルによつて廣範圍に亘つて支配せられたお蔭で、英國労働黨政府はその經濟を國家の獨占到委ねるといふ集産主義的目的を達成することが出来たのである。

聯邦商業委員會の一九四八年度の報告書には次のやうなことが書かれてゐる。「集中化

傾向の發展を阻止するの何らかの手が打たなければ、集産主義は自由企業に對して勝利を得るであらうし、又自由競争の原理は善意ではあるが効果のない理想として奈落の底に突き落されるであらうといふ事は容易に豫見されることである。この國は集産主義への道を歩むか、でなければ自由企業に凡て包含せられてゐるものゝための防衛者として勇敢に闘はねばならぬ。」

自由企業に限らず凡ゆる自由がその闘ひに於て危機に瀕してゐる。何となれば、現代史の教ふるところによれば經濟的自由と政治的自由は不可分の存在であるからである。即ち自由經濟なくしては自由な政府といふものは存在し得ない。又言ひ換へれば即ち現代に於て大衆といふものは、自己の經濟を支配する力がなければ自己の政府を支配する力をも失ふものであるといふ意味なのである。

自由の消滅は經濟的自由の弱体化を以て始まるのであるから、經濟界に於て我々は須らく民主々義の防衛に努めねばならぬ。經濟的民主々義の擴大強化は決して現代的産業組織

の一掃とか巨大企業の細分化を意味するものではない。現代的な企業体なくしては我々は發展も出來なければ、又此の産業時代に必要とされる機械や技術を有効に利用することも出來ない。

現代科學技術は大規模な組織を必要としてゐる。併しながら經濟的民主を義なるものは人民の社會的乃至經濟的欲求により即應せる企業と、又企業の經濟的欲求及び經濟的機會に對してより責任のある政府を必要とするものである。例へば政府當局は行政法を施行するに際して同時に裁判官と陪審員になることは決して許されない。それ故數年前議會は政府當局による指導の標準を制定し、政府の政策に對して法廷に提訴する道を開いたのである。さればといつて國家的であれ國際的であれ、企業がそれ自身法律化することは許されるべきではない。

今や我々の經濟に對して政府の干渉と統制が強大に過ぎる嫌ひがあるとすれば、思ふにそれは一に我々が私的經濟組織の指導に對して妥當な機構を造り出す余裕がなく、又その

勞を敢へて取らうとしなかつたからである。それが故に私は國家的企業には國家的憲章が必要であると主張したのである。かくの如き憲章は各州間の通商に従事してゐる各會社の權利と義務に對して國家的標準を確立し、かつ巨大企業をして關係のない分野にまで膨脹することを阻止するものである。我々凡ての利益といふ見地からいつて、この計画は正當な企業を阻害するどころか寧ろ企業を自由にし又企業の自由を保全するものである。明確に規定せられた權利の國家的標準さへあれば、我々の企業組織は聯邦政府がその分別に従つて決定する現在及び將來の政策に依存する必要はない。

我々は自分自身の欺瞞してはならない。若し集産主義が實現されるとすれば、それはクレムリンに於てたくらまれてゐる陰謀のためではなくて、我々自身の近視眼流と因循姑息によつて既に米國內に發生を許してゐる事態の故である。

臺	の	近
灣		況

台湾の地位問題

「南京特電（UP）七日發」

中國高官筋によれば、國民黨官邊は和平交渉で中共が台湾の支配を要求する可能性があるとし、その場合米國が台湾の法的性格の問題を持ち出すだろつと見ている。同筋によれば、台北の米國總領事代理T・Dエドガー氏ら幾人かの米國官吏は非公式の個人的會談で台湾の將來につき關心を表明したが、そのさい彼らは台湾は米國の防衛計画に含まれており米國政府は同島が友好的軍隊により維持されることを望むだろつし、又もし中共が台湾の支配を要求すれば米國政府は正式には同島は對日平和條約の締結までは「占領地」であり、従つて國共間で處理するような國內問題ではないと主張せざるを得なくなるかも知れないと指摘した。

台湾で學生大量逮捕

「台北特電九日發」A P 特約

台湾警備司令部當局はさる五日いらい暴動とデモをあり立てた疑いで二百名以上の大學生を逮捕した。

陳主席は學生の逮捕は好ましからぬ分子の潜入を防止するためだと語っている。

澎湖島で米騒動勃發

「ホンコン廿五日發」U P 共同

タイワンからの情報によれば、中國の海軍基地澎湖（ボンフー）島で二週間前米騒動が起り、軍隊はこれを鎮壓するため發砲し民衆數百名が負傷した。

タイワンで人民投票實施を國連に要請

「ホンコン廿日發—UP共同」

「在ホンコンのタイワン再解放連盟會長トーマス・リャオ氏が十八日發表したところによれば、同連盟はその他のタイワン人団体九の支持を受けタイワンの將來を決定するため人民投票を行うことを國際連合に申請した。この申請はリー事務總長その他國連事務當局、トルーマン米大統領、エヴァット・オーストラリア外相マツカーサー連合軍司令官その他諸大國にあて發送されたが、申請の内容はつぎのとおり

- 一、タイワンで人民投票を行う
- 二、國連は一九四九年末まで行政權を握るタイワン中間政府を樹立する
- 三、終戦後タイワンに入國した全中國人の歸國
- 四、中間政府は現在中國人の手にある舊日本財産を接收する
- 五、終戦以來中國人の與えた損害の賠償



國際焦點に立つ台湾

中國内戦はいまや國共いずれかゝ決定的な勝利を得るまでは激烈な死闘が繰返される運命に立至っているが、台湾が、中國政府側の勢力挽回の根據地という重要な地位を占めているため「台湾の國際的地位」は今春來いろいろ論議され今後はさらに大きな問題に進展する可能性を含んでいる。米英側は台湾に少しでも中共勢力が及ぶようなことになれば、ソ連勢力圏の前進を意味するものとして台湾問題に大きな關心を寄せていると考えられるが、外電に現われたその代表的見解は大体次のようである。

すなわちA F ヴァンブリー記者は「太平洋防衛上台湾の占める戰略的地位は極めて重大だから、アメリカが中共の台湾占領を希望しないことは確実だ」と述べ、グロジヤン佛記者も「台湾が戰場となるようなことがあれば、單に中國の問題ではなく世界の大問題だ。アメリカは毛澤東の台湾進出を断じて黙認しないだろう。いよいよという時になれば國連

の問題として台湾が浮び上つてくる可能性がある」と述べている。

さらにワシントン・ポスト紙は「蔣（チャン）總統が政界に復歸したため、米國の極東政策は再編成する必要に迫られている。もし台湾が内戦の渦にまきこまれるならば、米國の極東に於ける全軍事作戦計画は危険にひんするであろう」と論じ、英國の見解についてはUPワシントン電は「米英兩國は台湾を中共の手にわたさないことにつき既に原則的に意見が一致している」と傳えている。

ところで台湾が内戦の舞臺となつたり、中共の手に歸したりすることに米英が反對しているには何らかの法的根據がなければならぬが、これにつき米國務省マクダーモット・スポークスマンは「中國占領下の台湾はソ連占領下の千島と同じ立場にあり、どちらも對日講和條約締結をまたねば最後の處置は決定されない」と述べており一方ベズイン英外相は三月二日「カイロ宣言にかんがみ、中國政府は對日講和條約の締結まで台湾の統治に當つて」と語り、いずれも「領土權は最終的には講和會議によつて規定される、従つて

台湾の歸屬はいまだに決定していない」との見解をとつていと解される。さらに「西歐側の各國が台湾を中國に返還することを約束したのは事實だが、その當時將來台湾が友好的な政府によつて統治されるべきだと考えたことは確實であり、中共が全中國を獲得した場合には右の公約はもはや有効とはみられないであろう。」(UP)との主張もある。

△—米英の見解は大体以上のように要約されると考えられるが中國および他の一部國際法學者の見解は少しこれとはちがつている。すなわち「通常的方式では領土の歸屬は講和條約で規定されるが、台湾の場合は降伏文書すなわちポツダム宣言の受諾で規定された。同宣言第八條には、カイロ宣言の條項は必らず履行されるとあり、カイロ宣言では中國東北、台湾、及び澎湖(ボンフー)島のように日本人が中國人から取つた一切の地域を中華民國に返還することを決定しており、これらの地域が日本の降伏によりただちに日本の領土権から離脱するものではないにしても少くとも、離脱することが約束されている以上、その離脱は離脱の措置が終了した時つまり台湾について中國の領土編入措置がとられ

た時である」としている。

そして中國政府は一九四五年九月二十日台灣省行政長官公署組織條例を公布、十月廿五日光復式典が擧げられた。これで中國への領土編入措置は終つたとしているわけである。なおこれが後日對日講和條約で確認されると否とは別問題である。この先例を求めるならば、日本の舊委任統治地域をアメリカの戰畧的信託統治地域に切り換えるに當つては、日本の統治權喪失を終局的には講和條約にかゝらせよとの提案は全部否決され、信託統治協定は講和條約に關係なく獨立して發効した。これは日本の受諾したポツダム宣言の條項がこれによつて法的に完了したことを意味し、その効力は講和條約によつて再確認されるかどうかには關係がないとみるべきである。また朝鮮の獨立も同様で、對日講和條約は何の關連もなくなされたからといつて、すでに諸外國がその獨立を承認し、外交使節を交換している現在、法的にはなお日本の領土だと主張し得るといふ根據があるとは考えられない。台灣についても當然このようなことが考えられるというのがその主要見解である。

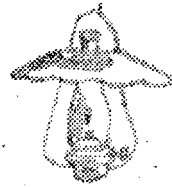
台灣へ援助増加要請

「台北八日發—AP共同」

台灣視察中の米經濟協力局中國分署長ロジャール・ラファア氏は台灣に對する米國の援助増加を要請するため十六日ワシントンに出發。

ス
ロ
ー
ガ
ン

- 一、台湾は台湾人の台湾として再解放せらるべきである。
- 二、台湾獨立は台湾を救ふ唯一の道である。
- 三、公民投票は自由への道であり、廢敗統治から脱すべき闘ひに於ける最も民主的な手段である。
- 四、公民投票は台湾再解放聯盟の主目標である。
- 五、國際聯合は既に國民黨政府が台湾統治に失格して居る事を認めて居る。
- 六、對日講和條約までは、台湾の歸屬は尙決定されたものではない。
- 七、對日講和條約調印前は台湾は未だに中國の領土ではない。
- 八、台湾は今中國の暫定的信託統治下にあるのだ。
- 九、非共產主義的獨立台湾こそ台湾人を救ふことが出来る。
- 十、台湾は台湾人の主權の下に、台湾人により、台湾人のための統治が行はれなければならぬ。



連載小説

故郷の味 (一)

——本篇は戦後抛り出された自由のなかに在日台湾同胞間に起つた混沌たる事實を手短に物語化した。
台湾人に生れたことを誇りに思ふ若き人々には、悪夢として忘れ去りたい事實であらう。

然し、事實は事實である！

眞に進歩的な台湾を建設しようと思ふ若き革命同志諸兄に良き思索の資料となり
今や到来しつつある台湾の自主建設に寄與するところあれば幸ひである。

——筆者

一、砲聲止む

サイパン島が落ち、四年有半日本國民を

引きづり廻した東條内閣は、自國々民の怨
嗟の中に倒壊した。

小磯が朝鮮から呼び返されて米内と協力内閣を組閣し終へる頃、新聞は盛んに、「疎開」を唱へ始めたのである。

近代史上において、日本人の身邊に戦火が訪れるのは始めてであるだけに、新聞の掛聲に反して市民達は頗る呑氣である。

「お宅では疎開なさいますの？」

「いゝえ、主人は務めて疎開するわけには参りませんし、あたしと子供だけ里へ参りましても、家がガラ空きて困りますわ」
「それに、微用！ 微用！ て女中さんも置けませんしね」

「お宅は如何なさいますの？」

「宅では小さいのが居りますから、疎開しろと言ひますの、然し別々に暮すのは考へものでは」

かう言ふ近所の奥さん連中の話を秀蘭は殆んど無感で聞いて居た。彼女には「疎開と云ふ事は必要でもないし、又許されることでもなかつた。一昨年、一途に東京にあこがれて、同郷の舊家の子女を世話する爲に郷里を離れて以來様々な變化のあつた身の上であつた、只一人の頼りとする兄は派遣教員として、海南島に赴いて、此方三

年になるが一年來バツタリ消息を絶つて居る。傳へ聞くところによれば、海南島で土民の襲撃に遭つて死んだとも聞いた。然し秀蘭は氣性こそ劇しいが、あの人の好い兄が誰かの恨みによつて、殺されるとは信じなかつた。唯一倍秀才肌の兄が志空しく異郷に死んだ事は残念であつた。

秀蘭は一年だけ東京にゐる約束で出郷したが、一年の務めを果たした後、ひまを呉れるには呉れたが、美軍潜水艦の出没が劇しくなり、高千穂丸、蓬來丸と台灣航路ではその名を誇る豪華船が基隆港外に藻屑と消

え、輸送統制が強化されて歸國も出來ず、當惑してゐるうちに、異國の空に母の死報に接したのである。かう云ふ生死の別離によつて幾度か運命の波浪にもまれた彼女は近所の奥さん連中の疎開談議は、それ程困つた事だとも思はれないのである。

夜になつて、家の若い男連中が歸つてくると、話の花の趣向が變つてくる。

「疎開！疎開！」と云ふけれど、皆なかなか疎開しないだらうなあ」

これは又法學生二年の龍郷のそれとない言ひ方である。

「疎開だ、なんだかんたいふよりも、あつさり手をあげた方が得さ」

灣産醫學博士郷承公氏は飯をかきこみながら答へる。

「大体、日本人は勝つ心算で此の戦争を始めたのが間違つて居ますよ」

腺病質な顔を上げながら、眼鏡に手をやつてインテリ―然として龍敏は答へる。

「日本人は何でも、自分等が一番強い、自分達の習慣が一番よいと思つて居るから、一度、徹底的にやられなければなりませんよ。台湾の「ちまき」が汚い「紅龜餅」はバ

ナナの葉がくついて居るから汚い、とケチをつけて、日本の「なつとう」といふのは尙汚なくて食べられない。おまけに「さしみ」なんて云う生魚を食べるのは野蠻の證據だよ」

龍敏はこゝぞといはんばかりに續ける。「日本人がやたらに我々をけなしたのは事實さ、然しさしみの味は決して悪くはないよ」

比較的物の言ひ方、見方に偏見を嫌う龍郷はいたづらつばい笑顔を見せながら返事をする。

「あんなものをお前は喜んで食べるやうだが、今に腹に虫がわくぞ」

龍敏は兄貴分らしくやゝ感情的に高飛車に出る。

「醫者なんていうのは實際的だなあ、腹がどうなつたつて、うまいものはうまい。日本人が偏見をもつたから、我々も偏見をもつのは良い事ではない」

龍郷の理想家肌の一説に龍敏はむら／＼と不愉快になつてきた。

「お前なんか、親父のいう事を聞かんで醫者を嫌つて、文學だと騒いだあげく法科に

入つて居るが、台湾人が法科に入つたつて何もならんぞ」

「幾ら、台湾が著いからと言つたつて、さう／＼竹やぶや、筍ばかりが多くてたまるかいかい」

若い方も負けずに應酬する。

(つづく)

Declassified in Part - Sanitized Copy Approved for Release 2012/02/23 : CIA-RDP83-00415R005600090001-9

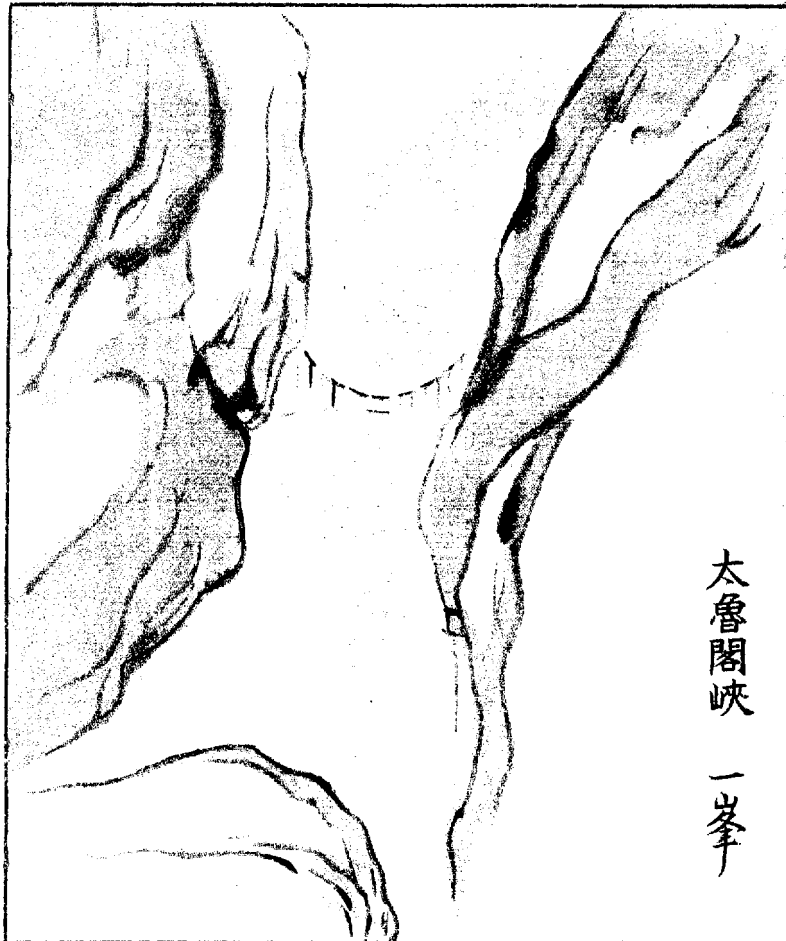
台灣再解放聯盟
日本支部

一九四九年十月一日

Declassified in Part - Sanitized Copy Approved for Release 2012/02/23 : CIA-RDP83-00415R005600090001-9

進 前

號三第



行發會究研濟台

目次

臺灣の歩むべき路線	臺灣再解放聯盟	1
同志諸兄に告ぐ	日本關西支部	1
米國の對華關係	林順昌	24
臺灣と教育	唐仁德	27
臺灣の教育	王博華	31
臺灣紀行歌	焦粹兒	35
解放の鐘	岳靜	37
臺灣の鑑	高正	38
同胞を迎えて	張添丁	40
「華僑文化」第十號に呈す	陳慶芳	45
時事解説	編輯部	47
比島に臺灣獨立を支持要請		50
臺灣便り		57
同胞の喚起を促す	許天賜	58
臺灣青年に直言	王真人	60
臺灣解放自由歌	蔡盟	63
編輯後記		65



臺灣の歩むべき路線

臺灣再解放連盟

日本關西支部

一、宣言

臺灣の歩むべき路線

(一) 引言

(二) 臺灣解放運動の沿革

(三) 過去に於ける臺灣解放運動の目標

(四) 接收後の臺灣

(五) 二、二八の教訓

(六) 我々の主張

三、基本綱領

A、政治

B、經濟

C、金融

D、社
E、教
F、軍
G、外
H、其
の
他
交
事
育
會

一、宣 言

臺灣解放のため在日同胞に告ぐ

親愛なる在日同胞諸君！

臺灣解放運動の有力なる勝利軍—臺灣再解放連盟は臺灣各界人士参加の下既に臺灣解放の目的に到達せんとして居る。臺灣解放の爲に臺灣人民大衆の利益の爲に我々は全同胞と共に努力し、困苦を辭せず犠牲を惜まず飽くまで奮闘し、以て解放の目的を達成せむ事を誓つて、茲に「臺灣再解放連盟日本關西支部」の成立せる事を宣言する。

同胞諸君！我々祖先は滿清に反抗し、漢民族の奴隸的地位より解放せんが爲に、鄭成功を指導者と
同胞諸君！我々祖先は滿清に反抗し、漢民族の奴隸的地位より解放せんが爲に、鄭成功を指導者と
して臺灣を革命の根據地と定め、數知れぬ先烈の生命鮮血を犠牲にして、和蘭、西班牙等の異民族を驅逐し、此の民族生存の地臺灣を固めた。爾來三百年有餘、我々祖先代々は千辛萬苦を経て苦心慘澹、此の美しい樂園の建設に努めたのである。然るに料らずも不幸、この錦繡たる山河は腐敗せる滿清政府に依つて日本へ割讓せられ、臺灣同胞は五十年間、日本帝國主義の植民地奴隸に淪落するに至つた。此れが爲に臺灣同胞をして五十年間、解放を得むが爲に血潮を流さしめ、數知れぬ先烈の生命を

犠牲にした。此れは我々同胞に取つて痛ましい記憶に新たなるものがあらう。

今日、日本帝國主義の第二次大戰に於ける敗退に依り臺灣は日本帝國主義の羈絆より脱するを得た。然るに日本帝國主義の後に臺灣統治を引繼いだ政府なるものは、中國人民の政權を篡奪し、四億五千萬同胞を搾取し、又民族を賣るに躊躇せざる無恥な強盜集團—封建軍閥と官僚資本の集團であつた。此の強盜政府の腐敗、專制、無能、搾取振りは、此れを昔日の滿清政府に比し、更に殘虐苛酷を極めて居る。此の政府の臺灣進入以來、臺灣人民は空前未有の困窮苦痛に直面した。一切の農産、鑛工業及び金融貿易事業は總て壟斷せられ、しかも公營鑛山、工場の生産設備は此の強盜政府の無恥な爪牙によつて破壊、身賣され、遂に各種生産は停頓、或は半停頓状態に陥るに至り、生産高は此れが爲に極度に低下した。加ふるに紙幣は間斷なく濫發され、物價は日に日に昂騰を続け、失業者は百萬の多きに達し、此の様な状態の下にあつて、臺灣の商工業者は日を追うて破産の一途を辿り、農工及び一般勞働大衆の生活は逼迫し、朝には夕を保たざる状態に瀕して居る。しかも特務機關は島内に横行し、生殺與奪の權限は政府の手に握られ、生命財産は保障を失ひ、老幼男女を問はず殺戮、逮捕を恣にされ、威壓的恐怖政策の下、戦々兢々の日を送つて居る。斯くの如き痛ましい状態は臺灣三百餘年の歴史上未有の事である。

然乍ら、同胞諸君！ 腐敗政府の殘虐行爲のすべては剝奪、專制、殺戮のみに限らず、貪慾あく事なき反動政府は民族利益をも賣らんとして居る。同胞諸君！ 我々は五十年前、滿清政府に依つて賣られた。其の時、我々は賣られる事を知つて決然起つてこれに反對し、否認し、滿清より離脱して臺灣民主國の樹立を聲明したが、時已に晚く、結局日本の上陸を拒まうとして、又五十年の間、解放を謀らむとして量り知れない鮮血を流したのみならず、植民地としての凡ゆる苦痛を嘗め盡した。我々若し、再び賣られる事を避けんとし、再び植民地たるの境遇に陥る事を免れむとするならば今直ちに起つて現在の

反動政府を覆へして臺灣人民の民主政府を樹立せねばならん！

同胞諸君！ 現在反動的強盜政府は數年來國內戦に利あらず、今や風前の燈となり、我が臺灣を以て最後の逃亡地となし、無恥なる一部裏切者の臺好を利用して、欺瞞的猿芝居を演じさせようとして居る。一片の偽憲法、省縣市長の民選、地方自治等の欺瞞的看板を以て我々同胞を欺かむとして居る。

然しこうした偽民主の芝居は臺灣同胞により早くから看破され、民主の假面を着ても其の兇暴なる面相を隠す事は出来なかつた。強盜政府の眞相は「二・二八」の時已にはつきりと露れて居る！ 同胞を欺く裏切者を除いて、反動政府の殺戮、搾取を痛恨せざる者はなく、絶對に度とワタに當らないであらう。

起て！ 同胞諸君！ 我が臺灣には三百有餘年の光榮燦然たる解放運動闘争史を有して居る。我が臺灣には優秀なる政治、經濟、文化の基礎を有して居る。しかも我々臺灣同胞には強烈なる正義感及び正義の爲には犠牲を惜しまぬ勇敢な闘争精神が有る。我々は必ずや反動統治を覆して最後の勝利に到達し得るであらう。また必ずや理想の臺灣を建設し、中國革命に貢獻し得るであらう！

同胞諸君！ 起て！ 我々自身及び子々孫々の生存と幸福の爲に、我々は全同胞及び臺灣の凡ゆる革命勢力と共に力を協せ、共に働き、飽く迄闘ひ以て臺灣最後の解放に到達しようではないか！

臺灣再解放連盟

一、臺灣の歩むべき路線

(一) 引 言

臺灣問題—臺灣解放の問題は二・二八事件以來、新らしく臺灣人民大衆によつて緊急解決を要する焦

肩の問題と見られるに至つた。又此の問題の發展經過に對し、中外人士は皆特に重要視して居る。廣大な臺灣人民大衆は「二・二八」に於ける嚴しい教訓と「二・二八」以後の臺灣の政治經濟の實狀よりして、已に統治者の兇暴なる實體と欺瞞的手段を明らかに發見し、現在の政治經濟機構に於ては人類の享くべき合理的生活を求むる事が出來ず、解放の途を謀るべき事を強く認識した。

かくして此の問題に對して種々異つた見解を生じ、海外一特に世界列強の注視を浴びた。現下の複雑なる國際情勢下にあつて我々が此の問題—臺灣解放問題に對し、若し周密なる注意と熟慮を缺けば眞の解放目的に到達し得ないのみならず、解放力自身の分裂と陣營の混亂を生じ、外的障害に遭遇し、臺灣同胞をして更に苦痛の深淵に陥らしめるであらう。

此の故に我々は臺灣人の一人として臺灣人の立場に立ち、臺灣人民の福祉の爲に謹んで我々の意見を提出し、臺灣全同胞の前に獻じ、全同胞と共に慎重なる研究を加へ、眞の解放に達すべく正確且つ合理的な道を求めざるを得ない。

(二) 臺灣解放運動の沿革

臺灣人民が解放を求めてより已に五十餘年の久しきを經過し、其の解放運動も已に五十有餘年の歴史を有して居る。臺灣人民の大部分は皆反清復明の革命事業の爲に、臺灣を以て革命の根據地として、民族の英雄鄭成功に従つて來臺した民族革命の先烈の後裔なりと信じ、又彼等は其の祖先の革命に對する忠心義務を、或は其の祖先か此の革命の根據地を固めるべく、曾て和蘭、西班牙等の民族と勇敢なる闘争をなし、遂に此等外敵を臺灣より驅逐した光榮ある史實を忘れて居ない。然も又彼等は其の祖先が孤立無援にして力盡きて、一時滿清に制壓されたが未だ曾て滿清打倒の宿志を放棄した事はなく、依然として斷續的、或は連續的に滿清政府に對し反抗闘争を進め、所謂「三年小亂、五年大叛」の歴史を留め

て來た事を知つて居る。

故に日清戦役に於て滿清は敗れ、馬關に於て日本と和を講じ、臺灣を賠償として割譲すると云ふ報道が、一たび臺灣に傳はるや、臺灣人の公憤を激發し、革命の烽火を燃上らしめ、臺灣民主共和國の成立を宣言し、滿清の中國より離脱して滿清の臺灣割讓條件を承認せず、日本の侵略を抗禦する事を決意せしめた。

臺灣民主共和國は、最後には優勢な日本軍にせん滅されたが、臺灣人民の武装暴動は前が倒れ、以後より起つと云ふ場合二十年もの間続いた。

其の後交通の發達に伴つて日本の統治は次第に鞏固となり、加ふるに遠く離れた孤島の爲に兵器彈藥が續かず、武装反抗運動は次第に下火となつて行つた。然し臺灣解放運動は決して此れに依つて止まつたものではなかつた。當時臺灣人民は過去の武装反抗運動がただ單に軍事的勝利にのみ依存して、廣大な大衆に對する政治、訓練及び組織工作に缺け、軍事行動と政治工作は互に平衡を失ひ二十有餘年の武力抗争にも係らず、却つて敷かれぬ多くの革命志士を犠牲にしたのに鑑み、遂に合法的手段を用ひて民衆の組織工作及び政治訓練工作を始めた。是より日本に向つて合法的闘争を開始する一方、秘密裡に革命の基礎工作を進めたのである。

この様な半公然、半秘密的解放運動はずつと臺灣光復の日迄續けられた。日本の起した侵略戦争の期間中、合法運動の範圍は極度の制限を受けたが、秘密的地下工作はかうした極めて困難の最中にあつても依然として續けられて來たのである。

(三) 過去に於ける臺灣解放運動の目標

然らば此の五十有餘年に亘る解放運動の中で臺灣人民は一體何を求めて居たのであらうか？ その一貫

せる目的は何であつたらうか？ その一貫せる目的とは「日本帝國主義政治の打倒」である事は言を俟たない。即ち日本帝國主義の臺灣に於ける政治上、經濟上及び其の他一切の勢力を徹底的に覆へして、臺灣の獨立民主政治を建設し、臺灣人民全體の爲に福祉を謀る事である。當時の臺灣は日本帝國主義の植民地である爲に、一切の政治、經濟、金融、教育、文化は總て日本人の手中に掌握され、臺灣人民は凡ゆる面に其の壓迫と擄取を受けねばならなかつた。茲に當時の政治、經濟狀態を概括的に舉げて見よう。

(一) 一切の政治的權力は完全に日本帝國主義の手中に歸し、臺灣人民は毫も政治的權利と自由を持たなかつた。

(二) 一切の重要産業及び金融機關は總て、日本帝國主義大資本の獨占下におかれ、土地も半ばは日本帝國主義の所有に歸し、日本帝國主義下にある臺灣民族資本は、成長發展の機會がなかつた。日本の侵略當時擄頭した許りの臺灣商業資本階級及び地主が土地の收益より蓄積した資本は、日本の侵略後間もなく、獨立的發展の前途を失つてしまつた。その結果、唯日本の大資本が臺灣の事業に投ぜられるのみで、しかも日本の資本と融化し、或は土地に投入され（自作農が日を逐うて破産するのに乗じて其の土地を買い上げる）其の封建的擄取を續けた。偶々資本を集めて事業を起そうとしても規模極めて小さく、日本大資本の壓迫下にあつて、其の經營存立は殆んど一様に困難となつた。其の爲に臺灣の民族資本階級は其の基礎が非常に脆弱となり皆封建擄取の地主を兼ねる身となつて居た。

(三) 日本帝國主義大資本の經營により、資本主義企業は高度の發展を遂げたけれども、他方農業生産技術は尙も自然經濟の域を脱し得なかつた。大多數の農民は依然として封建的擄取と高利に依る壓迫下に呻吟して居た。

日本帝國主義は臺灣侵入以來、封建的關係を打破しないのみならず、封建的擄取を利用して其の資本

の原始的蓄積を進めて行つた。賦役なるものも、又彼等の搾取の手段であつたのである。

(四) 日本の臺灣に於ける工業が發達するに連れて工場労働者階級は大きく成長した。

此の大いなる労働者階級は悪劣な労働条件下に帝國主義の酷使と搾取を受けた。一般自作農も、又商品經濟と高利貸より交々攻められ、日に日に破産へと進んで行つた。そして土地は次第に狭少となり甚しきは喪失するに至つたのである。

(五) 中小商人は日本帝國主義貿易資本の牽制下にあつて日々没落の一途を辿り、事務職員或は労働者へと轉落して行つた。又一般自由業者(辯護士、醫師、記者等の如き)或は係給生活者(教員、銀行會社、政府の職員等の如き)は蔑視と差別待遇の下に不満な生活を送つて居た。

(六) 日本帝國主義は臺灣に於ける植民地搾取の順調な發展を維持する爲に、極めて厳しく警察制度を利用し、臺灣の司法、立法、行政權を總督の手中に收中せしめ、總督專制政治を推進した。

この様な政治經濟の狀態下にあつて臺灣人民が、眞の解放目的に達する爲過去の臺灣革命指導者は次の專柄を掲げた。

一、帝國主義を剷滅し、臺灣を獨立せしむること。

一、臺灣に於ける帝國主義の土地、財産、企業、銀行を沒收する。

一、土地革命を實行し、封建搾取を排除する。

一、人民民主政權を確立する。

彼等は此の任務を達成する爲地下に政黨を組織し、又公然と合法的政黨を組織し、又労働組合、農會、文化團體、其の他を組織した。そして其の組織を擴大強化する爲に不斷の努力を拂つた。彼等は下記の政治スローガンの下に絶えず民衆を組織し、民衆を訓練し、且つ政府に向つて闘争を展開すべく民衆を指導した。

一、總督獨裁政治に反對、六三法を撤廢せよ。

- 一、總督の法院に對する監督を撤廢せよ。
- 一、總督府評議會、各州の市協議會等の偽民意機關に反對。
- 一、一切の植民地壓迫の惡法を除去せよ。
- 一、保甲制度を撤廢せよ。
- 一、解放運動の犠牲者の釋放を要求する。
- 一、民族の自主的地方自治制度を要求する。
- 一、言論、集會、結社、出版、罷業の絶對自由を要求する。
- 一、各民族の一律平等。
- 一、無産階級の負擔と消費税を撤廢せよ。
- 一、苛酷なる雜税を撤廢し、統一せる累進加税を實行せよ。
- 一、労働法を制定し、罷業權及び團體協約權を確立せよ。
- 一、資本家負擔の失業傷病保險制度を制定せよ。
- 一、公有地を日本人退官者に與へる事に反對する。
- 一、甘蔗の區域別採取制を撤廢せよ。
- 一、立毛（青田）の差押えに反對する。
- 一、永久小作權を確立し、最高小作料を制定せよ。
- 一、義務教育費全額の國家負擔を要求する。
- 一、奴隸教育に反對する。
- 一、人身賣買を禁止せよ。
- 一、日本人の差別待遇を撤廢せよ。

- 一、中國革命を擁護せよ。
- 二、中國出兵及び中國内政干渉に反對。

此等の政治スローガンは當時講演會や文書、新聞、雜誌の紙上、或は工場スト、學校スト、市場スト、官公署デモ等、時を問はず隨時公開し、當時の利益獲得の目標とさせたものである。而もこの様な公然たる日常闘争には秘密工作を組合せて行はれた。闘争が激化すると何時も日本は逮捕、投獄等の手段を用ひて闘争を弾壓した。併し臺灣民衆は少しも権力に屈する事なく十年一日の如く勇壯熱烈なる闘争を續けて來たのである。

(四) 接收後の臺灣

民國三十四年八月日本帝國主義の敗戦に依り「ポツダム宣言」に基いて降伏し、臺灣は遂に日本の統治から離脱し得た。當時臺灣人民は此の報道を耳にするや躍り上つて喜んで、臺灣人民は日夜中國が抗戦に勝利を収めて呉れる事を祈念して居たが、その中國が遂に勝ち、臺灣も日本の統治より離脱し得たのである。そして今後中國は獨立民主國家を建設し得、臺灣も過去の一切の苦痛より解放されて、五十年來待望久しき民主革命は達成されると考へ、我々臺灣人は興奮した。其の爲政府官吏及び政府軍隊が臺灣に到着した時、我々は皆双手を舉げて歓迎し、これを擁護援助して八年間の戦時中の苦勞を忘れた。しかも歓迎の爲に消費した財物も數へ切れぬ程であつた。ところが其の結果は如何？ 四年餘りの事實が我々に告げて居る。我々の期待は完全に幻想に過ぎなかつた。

我々が期待して居た民主解放の目的は實現されないのみならず、差別、搾取、壓迫は日本帝國主義統治時代より更に甚しよを加へたのである。日本帝國主義が戦時中に執つた手段に較べるも更に殘酷無情なものであつた。

一、日本壓制下にあつて臺灣人民は公然と政府を敵と呼んで此れと闘う事が出来た。併し現在では一般ボスに操られて、御用團體となつた各種僞人民團體を除いては、人民自身の團體を組織しようとするれば、何人を問はず抹殺される事を覺悟せねばならぬ。政府と闘争するなど云ふ事は考へる事も出来なから、甚しきは無辜の家族でさへ壓迫を受ける危険に曝される。

日本統治時代の臺灣人民は尙自分の新聞、雜誌を發行して、政府を批判攻撃し、己れの主張を發表する事が出来た。併し現在では政府に阿諛する新聞雜誌の外は總て發行する事が出来ず、若し發行すれば其の發行人と筆者は逮捕されるか、葬り去られる事を覺悟せねばならぬ。

日本統治時代は人民の財産はまだ保障されて居た。併し現在では人民の生命財産に時と處を問はず危険にさらされて居る。捕縛機關は憲兵、警察の外に數十有るかも知れず、彼等は好き放題に人を捕え、此れを殺し、人民の財産を沒收した。彼等は人民の財産、妻女を劫奪しようと思へば時と處に關係なく異黨、奸徒と見做しさえすれば逮捕し、或は銃殺に處し得た。もはや法院の取調べもなく法院の判決も必要としない。法院は臺灣に在つては法に依つて法を行ふ事が出来ず、往々にして彼等と一つ穴のむじなとなり、法をまげ法を弄ぶ機關に過ぎなかつた。而も上訴する事は出来なかつた。上訴は即ち死を求むる道であつた。

現在根本的に日本植民地專制政治を繼承して居る外、幾多封建的なものを加えこそすれ、日本統治時代の法規はあとかたもなく破壊されて居る。司法、立法、行政の三權は日本統治時代と同様に行政長官の手に掌握されてしまつた。所謂參議會と云つたものも以前の評議會と同じく、人民欺瞞を以てする御用機關に過ぎず、政府を拘束する權力もなく、政府の法令は事前に參議會の議決を得る事もなく、事後も又參議會に提出して追認を受ける事もなかつた。そして政府を批判する參議員は今では皆姿を消してしまつて居る。

二、過去に於て日本人の手中にあつた企業は臺灣總企業の九〇%を占め、土地も又半数以上を占めて居た。これら企業や土地は日本人が臺灣人民の膏血を絞つて造り上げたもので、また同時に臺灣人民の基礎を剝奪したものであつた。

現在此等の企業、土地及び全島の金融機關は同時に政府に依つて接收された。政府は此れに依つて日本帝國主義を繼承して全臺灣の經濟的地位を壟斷した。接收當時の貧汚、混亂状態及び生産管理人の狼狽、無能振り、或は生産力の減退等は今こゝに言を俟つまでもなく、政府は臺灣に於ける一切の經濟、金融を接收した後完全に日本帝國主義の植民地搾取主義を繼承した。

會ては日本帝國主義が臺灣の經濟基礎を剝奪したが現在では中國の政權を掌握せる財閥獨占資本が、臺灣の經濟基礎を剝奪する處となつて居る。現在「中央政府」は日本政府公有の企業を其の手に收めたのみならず、日本人の私有企業も又その手中に歸し、其の制限範圍は日本政府のそれに比し、更に廣くなつて居る、臺灣人民は皆此の財閥獨占資本の搾取下に苦惱呻吟して居るのである。

日本統治時代臺灣の資本階級は日本大資本の壓迫を受けて、全く發展し得ず苦難の極に達した。かうした過去の日本の地位は現在中國の財閥資本家に依つて繼承され、臺灣の資本階級は依然として重壓下にある。そのみならず更に紙幣亂發の搾取政策が加はり、小規模の工場、鑛山を破産の運命へ導きつゝある。地主の經濟的地位は以前と變る處こそないが、其の實際の收入は紙幣の亂發に依り物價が昂騰し、農民は肥料を用ふ事が出来ず、地味は瘦せ收穫は漸減したので、地主の收入も影響を受けた。又内戦に依る兵糧の缺乏から田稅、餘剩食糧等の名目で、其の收入の半ばを奪つた。奪る半分も又命令に依り供出せられ、價値の日々に下落する紙幣と換へなければならず、此れを拒むと買溜め、賣惜しみの罪名の下に無数の逮捕機關で膏血を絞られ、こうして現在の地主は其の所有する土地面積を以前と變らないが、その生活と收入は甚しく以前と隔たつてしまつた。

一般中小商人は日本統治時代と同様な苦しみを受ける外、貧官汚吏の跋扈、紙幣の無制限発行と云ふ打撃が加はり、手元に商品があると賣らねば資金が廻轉せず坐して倒れる結果となる。併し例へ賣つた處で、今日の賣上代金で、翌日には前と同数の商品を買入れる事が出来ない。此の様に現在の中小商人の生活は總て毎日骨肉を削する様な生活で、實際に又其の資本は日に瘦せ、破産の一途を辿つて居る。

一般農民は依然として封建的搾取と耕地缺乏と云つた状態下に苦しみ、インフレは更に彼等の負擔を加重して居る。彼等こそインフレ搾取政策下の犠牲者として最大の一群である。以前の經濟状態にあつてすら、生活維持に困難であつたのに、現在では肥料は暴騰し、所謂救濟肥料等も單に貧官吏の懐を肥やすに過ぎず、貧しい農民は全く必要な肥料を購ふ資力が無い。地味は日に瘦せ、收穫は益々減じて居る。小作農になると地主に拂ふ小作料を差引くと、殆ど日常の食にも事缺く有様で、其の他の生活物資と交換する餘裕など更にない。自作農の中でも耕地の足らぬ者は、かような有様で正に悲惨の極に達して居る。偶々賣るだけの餘裕のある中農でも、政府は徵發の必要から收穫期には極力米價を抑制し、しかも中農には隠匿して置く力もなく、如何にしても收穫後直ちに手放さねばならない。そこで已むを得ず安價で穀物を賣り、しかも高價で塩、布等の生活必需品を購ねばならない。臺灣に於ては收穫期に於ける農民の米穀一斤の價格は政府專賣の塩一斤と同等である。これに依つても其の一斑が窺はれる。

かうした状態下に豪農の受ける損害も又甚大で、此れも又以前と甚だしく違つたものである。勞働者及び俸給生活階級に至つては完全に工賃或は俸給に依存して居るのに、インフレで物價は日増に騰り、其の上昇率も一ヶ月平均一倍乃至數倍となつて居る。

賃銀俸給は數ヶ月に一度調整(スライド)されるに過ぎず、其の毎日調整されるのは五、六割に過ぎず、此の爲、生活程度は急激に低落し、彼等は殆ど他人の搾取を受ける爲に人生を送つて居る様なもの

だ。失業者に至つては其の惨めな事は云ふ迄もなく、しかも現に失業者の数は空前未曾有の多きに達し政府は全く袖手傍觀して居る。

三、日本帝國主義時代の教育、衛生及び一般社會施設は、總て彼等の統治目的と計畫的に結合させたものであつたが、全くの無益ではなかつた。しかも其の成果には見るべきものが有つた。當時日本は所謂「皇國化」的奴隸化教育を強く推進して居たが、大部分の臺灣人民は曾て其の奴隸化の毒素に影響される事なく、却つて日本人の教育に依つて近代精神の洗禮を受け、科學の基礎知識を獲得し、學問を求め、道具を獲得した。日本人の教育は臺灣人を満足させはしなかつたが、臺灣人は廣汎な分野に亘り、日本人の教育に依つて一般知識を啓蒙され、且つ其の知識を以て日本人と闘つた。然しながら此の四年餘りの臺灣の教育は改進されるどころか、却つて日本人の残して行つた學校は官僚達の權利争奪の對象の一つとなり、しかも教師の素質は極めて低劣となり、學生は日本統治時代と同様學校内に於て非常な束縛と、國民黨の反動教育を受ける以外其の學問に就て少しの利益するところもない。臺灣の現在の教育狀況は全くの闇である。衛生及び一般社會設備は日本人の居た時、既に相當の基礎を具へて居た。併し現在では利益の多い部門が一部の者に掌握されて居る外は總て荒廢し、無に歸さうとして居る。そして數十年來耳にしなかつた、コレラ、チフス、マスト等の疫病を臺灣に於て猖狂を極めて居る。

四、日本統治時代日本人は臺灣に於て優越的地位を占め、人實際上に一種の優越感を持つて居た。併し彼等は法律の枠を越えてまで臺灣人民を欺凌する事はなかつた。そして彼等も法に遵ふ事を求められ、法に依つて行動して居た。然し現在の政府官吏は極く少數の人間を除いては皆汚汚にして無恥、無能、卑怯、不信、無法で恐嚇、詐欺を常用し、公且私に於て、衛生觀念を止し、上に媚び、下を欺

き、勢をたのんで人を陥いれ、私利私慾に走る劣等人種である。

そして至る處で臺灣人民を迫害し、生活を侵害し、臺灣人と屢々衝突するや、直ちに偽政府機關の名儀と威力は武器を以て盾として人民を壓倒して居る。

以上述べた事實に依つて臺灣社會状態を要約すれば次の様な要點が挙げられる。

第一、政治上、日本戦後臺灣の政權は日本帝國主義の手より中國の獨占資本と封建官僚との集團の手に移つた、この半封建的專制政權下に臺灣人民は寸毫も政治的權利と自由を持たず、生命及び財産の安全は絶えず蹂りんまれて居る。そして政治的要求は總て暴力に依つて制壓されて居る。

第二、經濟上、一方に於て資本主義は相當高度にまで發達し、しかもその資本總額の九〇%が現在日本帝國主義の手から中國獨占資本と封建的官僚集團の手に移つた。そして彼等の政權下にあつて臺灣人に對し植民地的掠奪を實行する國家獨占資本となつて居る。

他方土地の凡ゆる状態は曾て相當集中的に其の半ば以上が日本人の手に集まつて居たが、現在それが中國獨占資本と封建官僚集團の手に移つて居る。彼等の土地は其の他の地主の土地一切と同様、總ての農民に對し、封建的搾取を實行し、農民を悲惨な生活に陥いれ、且つ其の農業生産力の發展を阻害して居る。

第三、この様な專制政治と封建搾取下にある臺灣人民は既に日本帝國主義統治の五十年間に、徹底した近代的訓練及び近代精神と近代生活習慣を身につけて居た。しかも此の近代文化は教育の普及、交通の發達及び資本主義經濟勢力の浸透に依つて、其の影響は相當廣く、深く行き亘つて居た。こうした近代的觀念は臺灣人民の民族的觀念と結合して、日本帝國主義時代に早くも既に、日本帝國主義的專制政治と勇壯なる闘争を開始したのである。現在では其の近代的觀念は至る處で中國官僚が持つて來た封建的觀念と矛盾衝突して居る。(こうした矛盾衝突は往々にして省界觀念と誤認され、或は日本人の奴隸

化教育の結果が完全に誤りであつたと誤認されて居る)

此の矛盾の上に、政治的壓迫と經濟的搾取に對し、差別、蔑視等の不滿が加はり、一觸即發の危機を醸成した。此れに依つて所謂「臺灣光復」なるものは單に臺灣の統治者の變更に過ぎなかつた事が明らかとなつた。換言すれば、中國の獨占資本と封建官僚集團が其の國家政權を掌握、其の地位を利用して日本帝國主義の臺灣に於ける政治、經濟機構―政權及び經濟權益を接收し、日本帝國主義の臺灣に於ける統治者と接取者の地位を繼承した。唯、此れだけの事である。

臺灣人民は壓迫と搾取の下より解放されなかつたのみならず、其の壓迫と搾取は以前に増して更に甚だしくなつて居る。然し一筋に民主解放を叫んで、五十餘年の鬪争を繰返して來た臺灣人民はかうした状況下にあつては緘黙する事が出来ないのは當然である。二、二八民變の根本原因は即ち此の邊に在つたのである。

(五) 二、二八民變の教訓

最初臺灣人民は、まだ「中央(南京)政府」の性格を充分理解していなかつた、そして中央に期待して居たのみか、速かに官吏の不法行爲を抑制し、各部門の誤れる施策を糾正してくれるたらうと、臺灣の行政長官に期待して居た。故に絶えず色々の機會を利用して「中央」及び臺灣行政長官に對し、色々の意見を提出し、又善意的な批判や諷刺を始めたが然しこれはやはり功を奏さなかつた。却つて政府の遂行施策は益々露骨さを加え、善良な人民を不平不満のどん底に叩き込んだ。こうして職權を利用する官吏は人民財産を強奪し、甚だしきは無辜の人民の生命を奪ふ様な事件が発生するに至り、人民の公憤を買ひ、遂にそれが爆發して所謂「二、二八」民變が勃發した。

民變勃發當時臺灣人民は單に工場、學校、市場、下、談判等に依る平和手段を以て政府に政治を改革

し、以後再び不祥事件の發生せぬ様保證する事を要求した。

然るに政府は武力を發動して、交渉に行つた民衆代表を虐殺、そして街頭に於ても空手空拳の人民を恣に虐殺した。政府のこうした残忍な手段は臺灣人民をして武力反抗の道へ走らしめたのである。斯くして「二、二八」民變は數日ならずして北より全島各他に擴がった。和平交渉は武力反抗と變り、部分的要求より、急速に全面的政治改革の要求へと進展した。臺灣人民の此の擧げたる武力行動も不意に起つたものである爲、組織性、計畫性に缺け、しかも臺灣政府は「中央」の派兵援助を得て、計畫的に人民と代表を虐殺したので人民の武力は壓服され失敗に終つた。然し臺灣人民は此の事件に依つて獨占資本及び封建官僚の反動的な全體を徹底的に認識し、もともと中央政府—南京國民政府は中國の獨占資本と封建官僚であつて、強力な軍事組織を利用して國家の政權を掌握し、封建的殘酷な手段を以て人民を壓迫し、全國の經濟を獨占し、經濟擧取を行ふ政治集團である事を知つた。地方政府は正に其の仲介者であつた、臺灣政府も又其の例外ではなかつた。

臺灣に於ても彼等集團の利益の爲に臺灣人民に對し、虐殺と欺瞞の兩面政策を施行した。しかも此の政策は南京の所謂「中央政府」の一貫した政策であり、故にこの政府の統治下に於て和平、民主、自由な改革及び經濟的解放に達しようとしてもそれは完全なる幻想でしかなかつた。

(六) 我々の主張

現在此の獨占資本と封建官僚の集團—蔣政權は全國民に唾棄され、國內戰爭に押され、遂に臺灣を以て最後の逃げ場とし、臺灣を以て兵士食糧の永久供給地とする爲やつきになつて其の統治基礎を固めようとして居る。一方では無恥な臺奸を利用して民衆を欺瞞し、又一方では狂氣じみた恐怖政策を行い最近は暗殺、行方不明、逮捕、訊問等の事件は絶えず發生し、彼等は臺灣を最後の逃げ場にしようとする考へ

永久に臺灣人民の膏血を搾り、臺灣青年を内戦々場の弾除けに投入しようとして居る。

我々は過去五十年間、異民族の植民地として凡ゆる苦痛をなめ盡し、現在又封建的搾取を加重され、各階層の人民は曾てなき困窮に遭遇して居る。若し此の儘で推移せんか前途誠に憂ふべしである。

我々臺灣人民は生存権を守り民主解放を欲するならば臺灣各界人民の力を結集して反動政權の臺灣に於ける統治を覆へし臺灣民主政權を樹立する事、唯それ以外に目的達成の道はない。此の爲に我々は臺灣各階層人民の解放陣營を結成して、一切の解放運動工作を推進して居るのである。

親愛なる在日臺灣同胞諸君！我々は此の目的達成の爲に「臺灣再解放連盟」を結成し、臺灣各階層人民の要求を綜合して本連盟の綱領と政策を決定し、今茲に此れを擧げ以て在日全臺灣同胞團結して我々の解放目的達成の爲に意を注がれん事を希望する。

基 本 綱 領

一、蔣政權の臺灣に於ける反動政治を退けて臺灣各階層人民の利益を代表する民主獨立政府を樹立し、全中國政治が確固たる軌道に乗つた時、人民投票に依り聯邦の一單位として中國民主聯邦に加入する。

一、獨占資本と封建官僚集團の臺灣に於ける一切の財産、企業、土地、銀行を沒收し、且つ民族企業を保護する。

一、封建搾取を排除し、農工業生産の障害を除去する。

一、各階層人民の合理的な經濟利益を保障する。

一、苛酷なる課税を排し、綜合所得累進税を實行する。

- 一、日本統治時代及び蔣政權の反民主的法令を總て廢止し、人民の生命、財産、言論、出版、集會、結社、思想、信仰、宗教、罷業等の安全と自由を保障する。
- 一、島内民族の一律平等。
- 一、男女の社會上、政治上、經濟上、教育上の機會均等を保障する。

政 策

A、政 治

- 一、各級政府は何れも人民の直接選舉に依り選出し、且つ人民が直接選舉したる各級民選議會に責任を負う。
- 一、一切の法律及び一切の對内、對外的重要施設は最高議會の通過を経て始めて成立し得る。
- 一、立法權、司法權、行政權の完全なる獨立。
- 一、政府は法律を以て人民の生命、言論、出版、集會、結社、思想、信仰、宗教、罷業等の自由を制限する事は出來ない。
- 一、各黨、各派の一律平等、合法を承認する。
- 一、各縣市村に屬する事柄は全島の利益及び法令に違反しない限り、各縣市郡村の自治を認める。
- 一、滿二十歳以上の男女は均しく選舉權を有する。
- 一、普通、直接、無記名選舉法を採用する。一、高山區域の行政を改善し、高山に於ける同胞の利益を保護する。
- 一、公務員の任免、服務、賞罰、俸給の規則を定めて規律を嚴格にし、其の身分と生活を保障する。
- 一、公務員の貧汚、專橫行爲を嚴に取締る。

- 一、蔣政權の臺灣に於ける統治を擁護するが如き臺灣人民の利益に反する分子を取締る。
 - 二、特務機關及び特務活動を廢止し、集中營（訓導營）を取消す。
 - 三、一切の政治犯を釋放し、革命先烈の遺族を優遇する
- B、經濟

- 一、各公營事業は、各々其の單位職員及び職工に依つて經營の責を負う經營委員會を組織し、事業の發展及び經營の合理的改善を期する。
- 二、公營事業の廣大なものに各單位の經營委員より選出せる代表、及び各々其の代表が協議の上、招聘せる専門家に依つて、全島の經營委員會を組織し、各々其の事業の全般的計畫、連絡、監督、指導工作に責を負う。
- 三、公營事業の經營方針は國家經濟の發展を以て根本となし、人民の生活を豊かにし、且つ便利を圖るを以つて目的とする。
- 四、公營事業の剩餘金の分配は事業の積高金と工員報酬金を除く一部分を財政源とする事を規定する。
- 五、公營事業及び獨占性企業以外は總て出來得る限り、民營として解放する。
- 一、有益なる國家民生の民營鑛工業に對して出來得る限り、金融、技術、其の他の援助を與え其の發展を促進する。
- 二、共同農業を奨励し、且つ金融、技術、其の他の援助を與へて其の發展を促進する。
- 三、勞働者の共同工場の新設を奨励し、金融、技術、其の他の援助を與へ、以て其の發展を促進する。
- 四、極力、中小商工業の發展を扶助する。
- 一、公有地は總て小作料を免じ、直接土地の少ない農民に貸與する。
- 二、地主の土地を買収する、土地債券を發行して、封建的搾取排除の目的を達成する。

- 一、土地債權所有者は鑛工場を新設し、或は新設鑛工業に投資する時は、土地債券を以て抵當となし、銀行より借款し得る。
 - 一、新設鑛山工場は若干年の間、租税を免じ、農工、各種共同農場及び共同工場を営む時は、税率を軽減、或は全免する。
- C、金融財政
- 一、幣制を改革し、豪幣價值を安定させる。
 - 一、所得均一累進税を實施し、相続税及び奢侈品税、噸税の外には如何なる雜税も徴收ししない。
 - 一、豫算制度及び會計検査制度を實施する。
 - 一、收支均衡の財制度を實施する。
 - 一、最高利息法を制定し、高利貸營業を嚴禁する。
- D、社會
- 一、八時間労働制、最低貸銀制、團結權、罷業權、資本金負擔の健康傷害保險等を含む工場法を制定し適切に労働者の利益を保護する。
 - 一、小作權を保護する最高小作料を含む小作法を制定し、適切に小作農の利益を保護する。
 - 一、國家及び資本家負擔の失業保險を實施する。
 - 一、國庫負擔の廢疾、老衰、孤兒、行き倒れ人等の救濟機關を設立する。
 - 一、危険な仕事の従事に婦女子、兒童を傭ふ事を禁ずる。
 - 一、職業婦人の妊娠、育児期間中の生活及び休養を保障する。
 - 一、人身賣買及び賣春強迫を禁ずる。
 - 一、肥料、農具は公價で販賣する。

- 、結核、癩病の療養所、傳染病隔離病院を擴充する。
- 、米、砂糖、鹽、燃料、衣料等生活必需品は公價販賣する。
- 、高利舊債券一切を取消す。

E、教 育

- 、國庫負擔に依り義務教育制度を實施し、貧困兒童には國庫より圖書文具及び生活補助費を與へる。
- 、各縣、市に公立病院を設立し、各村落には診療所を設立する。
- 、授業料免除の夜間學校を普く設立し、職業男女青年の教育機關とする。
- 、困難優待青年男女は國庫に依り、其の進學を保障し、一切の費用を負擔する。
- 、國庫負擔の圖書館及び兒童圖書館、博物館、產業館、科學館等を普く設置し、科學的大衆的文化教育を發展さす

- 、工業、農業、水産各教育機關を充實し、各級工科、農科學校を普く設立する。
- F、軍 事

- 、徵兵制度を實施、臺灣自衛軍を結成する。
- 、軍隊は國土防衛及び反革命を武力で除去するを以て任務となし、軍人は政治に干渉出來ない。
- 、軍人は公務員と同等待遇である。
- 、一切の外國軍隊、軍艦、軍用機の臺灣領上、若しくは領海侵入を禁ずる。
- 、如何なる國家と雖も將政權を幫助し、臺灣に於て滯留をせしめ、臺灣をして内戰の渦中に捲き込まず事に反對する。

G、外 交

- 、永久中立を守り、世界各國と平和を結び、國際間の紛糾及び戰爭に参加しない。

- 一、臺灣解放に賛同する國家とは平等互恵の原則に依つて通商、外交關係を確立する。
 - 一、臺灣の利益に背く一切の條約、協定を取消し、或は改正する。
 - 一、日本に對し臺灣の受けるべき賠償—軍人、軍屬の死傷撫恤金及び未支拂の俸給、債務、各種保險金、臺灣準備金等の償還を要求する。
- H、其 他
- 一、蔣政權に對し「二、二八」の犠牲者の賠償を要求する。
 - 一、蔣政權に對し「二、二八」に於ける民衆虐殺の責任者及び兇手一切の引渡しと臺灣民主政府の處斷を要求する。
 - 一、蔣政權に對し其の駐臺期間に臺灣より搬出せる一切の財物返還を要求する。

天 快 亮——路 難 行

不 願 做——奴 隸 的 臺 胞

起 來！ 起 來！ 快 々 起 來 罷

占 在、打 倒 蔣 政 權 的 旗 下！



同志諸兄に告ぐ

林 順 昌

我等の郷土臺灣は、今未曾有の困難に面臨して居る。在日同志は、過去一年有半、多大の困難を克服して果敢に臺灣の解放運動を促進して來た。その甲斐あつて、多くの臺灣同胞は臺灣人として歩むべき道に目覺めつゝある。一部の懷疑論者は、臺灣の行くべき正しい道に對する正しい結論をなすことを回避し、不十分な世界常識を以て、手前勝手な希望的觀測を行つて居る、併し斯る傾向は一部分だけで問題ではない。我等は臺灣人に生れた者としての義務を忠實に果されなければならない。それは戦禍の脅威と、暴虐な獨裁者の壓政から如何にして六百五十萬の同胞を解放するかを考へねばならん、

過去一年間に於いて、本聯盟は充實と發展を遂げた。此の間における同志諸賢の努力は臺灣史上、大きな功績として記録されるべきであらう。茲に同志諸賢に對し深甚の敬意を表する次第である。

併し我等が果すべき歴史的使命の前途は尙ほ幾重の艱難があり、我等が負ふべき責務は重にして且つ大である。臺灣の地に生れたものは、これを回避するやうな卑怯、怯懦精神は持ち合せて居ないのである。故郷を憂ふるが故に我等の義務を、全智全能を傾けて果すべきである。

次に我等同志間は、お互の理解を深め、それは革命路線に於いてのみでなく、生活の日常茶飯事に至る迄お互が良き理解者でなければならぬ。如何なる事態が起らうと、如何に遠く隔離されて居ようと、相互の信頼が聊かも動搖しなかつたなら我等の前途は盤石である。

我々は單に結果の成否に依つて、同志を批評し評價すべきではない。結果はどうであらうと眞心こそ最も大切なことである。

革命運動者は確かに一齋も二齋もあるものが多い。勿論日常生活に於いて深い思索から生れる自信と強い信念があればこそである。

私は前に臺灣革命運動が起るべき事を述べ、更に第三回の工作委員會に於いて、近く、大きな轉換があるべきことを豫告した。果せるかな二ヶ月來の極東情勢の變化は凄しいものがある。我々の運動も二年前に較べて非常に容易になつて來た。その爲めに粗漏になつたり、怠慢にならん様戒めなければならぬ。私は左記の三點について、諸兄と共に考えて見たいと思ふ

一、眞實の愛國なりや、人類愛の精神ありや否や。

二、臺灣問題に關する認識の程度如何

三、其の能力如何

單に機會に投じて利益を博さむとするものは協力者ではない。革命の力量を強大にするにはより多くの協力を得なければならぬのであるが、決して運動の汚穢、混濁を意味するのではない。このことは運動の擴大と進展につれて深く心すべきこと柄である。

組織にあつては個人々々自ら思索した事柄を同胞或は世界の人々に、充分の自信を以て訴え、然る後、共鳴者に協力を求め、協力者に應じてその特長を生かすべきである。言葉を換えて云ふなら、宣傳と組織は不可分な關係があり相前後して行ふべきである。それから民衆が欲し或は希望するものは、それが又我々の希望すべきものである。

我々是我々の運動を愛し、愛するが故に此の運動を清淨なものにせねばならない。併しその爲めに偏狹になつたり、政治運動に必要な抱擁力を失つてはならないのである。

僭越ながら此の一編を同志各位に寄せる。各位は各地に於いて、幾多の困難を克服し、運動を遂行しつゝあることは敬服に堪えない、若し御参考になるところがあつたら幸である。御叱責、御鞭撻を蒙るで息まない。
我等が過去蓄積した力を以て一大運動を展開すへ各同志共々、最善の勝利を期す。世界革命の推移を把握し、眞實と信念を以て奮進する我々の手に歸するのである。
臺灣解放萬歳！

(格言)

百言よりも實行一つ

艱難汝を玉にす

我が身をつめて人の痛みを知れ

己の欲せざるものは、れを入に施す勿れ

天は自ら助くるものを助く

米國の對華關係（白皮書）

米國務院 一九四九年八月發表

第六章

II 臺灣

ジョンレイトンステワード大使一九四七年—一九四九年

中國政府内部の改革を促進しようとした米國の努力の記録の中に、臺灣の場合が含まれていることは當を得たものである。一九四三年十二月一日のカイロ宣言の規定によつて、米華兩國は、臺灣が中國に返還されるべきものであるとの意向を宣言した。一九四五年九月、同島の行政は、日本から中國政府軍によつて接收された。接收にあつて、日本の降伏機關と、一九四五年九月二日の連合國最高指揮官の指示の下に、日本政府から發せられた一般命令第一號に従つて、米國の小部隊が中國政府軍を援助した。中國は、臺灣がよい環境に置かれているのを發見した。といふのは、日本が同島の豊富な天然資源を建設面に役立て、いたし、また住民の生活水準が本國のどこよりも高くなつていたからである。同島は良い工場施設を持つていたし、食糧においても自給自足以上のものを持つていた。原住民は五十年の間外國侵略者の支配下に置かれていた。従つて中國政府軍を解放者として迎えたのである。日本占領中、住民の主たる希望は、本國と合體することであつた。このやうに非常に、よい状態をうまく利用する代りに、中國政府は、蔣介石の長い間の同僚である陳儀將軍を行政長官に任命した。彼はそれより數年前

妙な具合に福建省の主席をやめた人であつた。新長官は、傲慢な随員を引き連れて同島に到着したが、随員達は巧に臺灣を搾取し続けた。加うるに、前から同島に住んでいた人々は、公生活における重要な地位から、つき／＼と締め出されたので、征服者の支配が再び始まつたと感ぜしむるに至つた。

同島の経済的悪化と本國から來た官吏の行政が非常に悪かつたので、一九四七年二月二十八日には、住民の間の怨恨が爆發して大きな暴動となつた。數日間政府は、軍隊を使ってこの暴動を鎮壓したが、數千の生命が失われた。かくして秩序は回復されたが、本國人に對する憎惡の念は増加した。

暴動のあとで、南京の米大使は、蔣介石に對して、中國政府のやり方では、結局成功しないであらう政府の今の政策は、現在最も必要とされて居る富の源泉を、破壊するものであることを説明しようとした。大使から報告されるやうな情勢については、全く知らなかつたことを蔣介石は告白したが、彼は中國から派遣された調査團の調査に信頼を置いていたのである。その調査の大部分は發表され、陳儀には責任がないとなつて居る。だから蔣介石は、米國の官吏が見た通りの詳細な情勢を、知ることできる覺書を、彼のために用意して、くれるよう要請せざるを得なかつたのである。これはその通り実行された。こゝに持ち出された諸事實は、かくの如きものであるが、結局、陳儀が行政長官の地位から辭めさせられ、一九四七年五月に以前駐米大使をやつたことのある軍人でない陳道明が後任として選ばれた。その後約一年半、陳長官は、高潔かつ熱心に、情勢の回復に努力した。軍隊は目的のつかないところに移されたし、幾人かの臺灣人が、政府官吏に登用され、また地方經濟の開發が奨励された。そして長官自身は本土のインフレ化された破壞的な諸力から同島を孤立させようと試みた。もつとも高級官吏の多くは長官の權威を重んじなかつた。經濟情勢が改善されたと言ふことは出來ないとしても、情勢が著しく悪化しはしなかつたとは言ひ得る。

中國への使節として行つていた當時、ウェデマイヤー將軍は、一九四七年八月十七日、國務長官に對

して、次のように報告した。

臺灣における我々の経験は最も啓蒙的なものである。陳儀前行政長官の行政は島民を中國政府から引放してしまつた。多くのものは、自治下の状態の方がより好ましいと感ずる様餘儀なくされた。清廉かつ卓越せる行政を行ふ能力のあることを、中國民のみならず廣く世界に示す好機を中央政府は失つたのである。彼等がその失敗を、中共の活動とか、或いは異分子の活動に歸することは出来ない。住民達は日本の東縛から救われることを眞面目に、かつ熱心に期待していた。しかしながら陳儀と彼の隨員達は、無情、腐敗、貪慾の限りをつくして、幸福な、そして柔らかな住民の上に彼等の支配權をふるつた。軍隊は征服者の如くふるまつた。秘密警察は、大つびらに脅かしたり、また中央政府の官吏が擯取するのを容易にした。……

「同島は、石炭、米、砂糖、セメント、果實及び茶の生産に富んでいる。水力、火力發電も十分にあり。日本人は、遠く離れた地でさえも效果的に電力化し、また優秀な鐵道や公路を作つた。住民の八十パーセントは読み書きができるし、それは中國本土における状態とよき對照をなしている。臺灣人達は米國の保護と國連の信託統治を受けいれようとしているようである。彼等は中央政府が、よぼよぼな腐敗した南京機關を支持するために、彼等の島を擯り取らうとしていることを恐れて居る。事實、私は彼等の心配は十分理由のあることだと考える。」

中共が楊子江を渡らうとしていた一九四九年の正月、魏省主席はあつさり轉任させられ、陳誠將軍が彼に代つた。そして彼は軍政の復活に着手した。最近數ヶ月に臺灣の人口は、本國からの約四十萬の市民と、三十萬を越える避難軍隊の數だけ増加した。彼等は本國のインフレーションと一緒に持つて來たが、また同島だけでは支え切れないほどに人口を増加させた。經濟の悪化状態を調査した米國官吏は、一九四九年三月「高まる經濟紊亂は經濟上の磨擦を強化し、治療措置が講ぜられない限り、それは政治

的な緊張度を一層強めることになろう」と報告した。

これを要するに、中国本土の諸發展が、簡単に臺灣に移されるべきでないならば、同島をして可能な最善の努力がなされるべきなのに、そうした時にあたつて、同島が不手際に、非效果的に動いているといふのが、米國官吏の見解だつたのである。

右を一讀して感ずることは、蔣政権が試みた調査則と稱するものは「賦のつるには茄子がならん」の警言、如右の掛りをつくし、すまたり多量に良民を虐殺した極非道徳の陳儀を正しいものとして報告したこと。米國大使の忠告に對して、意外なりとして斥けた蔣介石の面目がよく分るではないか。二、二八革命當時臺灣人は、悪いのは日寇であり、蔣介石ではない。蔣介石に訴えたら政治はよくなる。自治も許されると深い夢を抱いたのであつたが、惡の根源は陳儀の背後にあることを多くの臺灣同胞は知らなかつたのである。

ウエデマイア將軍視察中云々は、吾人は空間にして未だ聞かない。臺灣人の念願は主權の獲得である。主權のないところに、自由、平和、幸福はあり得ないことを吾々はよく知つて居る。然らば主權の獲得はどうしたら實現出来るか。それは、臺灣同胞の結束であり、蔣政権を臺灣から追ふことである。



臺灣と教育

盧 仁 徳

(一) 日本統治下の臺灣教育

教育の目的は、社會に有用な人材をつくるにある。「人之初性本善」このことが絶對的であるならば、教育は、人間本來の善性を呼び起し社會人としての義務、責任觀念を養成すると共に、正しくものを見、正しく物事を判斷する力を養成することであると言ふことが出来る。國家の法律と人民の道徳は、會構成上重要な事柄である。それには秩序と統制が伴ふ。この秩序と統制が守られて居るか、守られて居ないかは一國の信用とその強弱を基礎づける。國家の強弱は、武力のみを以て左右されるものではない。國民性が善であり、文化程度が高く、國民全體が和合し一致團結して居たら、其の國家は間違ひなく榮えるのであ。

スイスは物資の缺乏甚だしく、しかも狭小な國でありながら、世界で最も平和な國家を形成している。國民の生活水準も中々高い。これは一にスイス國民の愛國心と、文化の高さと、道徳觀念の深さと、法律のよさが此の繁榮と平和を形成したのである。これに依つて我々は、スイスの教育に對する態度が想像出来るのである。

教育の必要性はこゝに在るのであつて、教育の方針と教育行政が重視される所以である。さて日本統治下にあつた頃の、臺灣の教育方針と教育行政はどうであつたか、検討して見よう。

臺灣統治初期にあつては、表面、教育を奨励しながら教育の目標は、徳育に重きをおいて極力智育を避けた。孟孔の教を取り入れ、仁義道徳を敷いたたので臺灣の古老に受け入れられ、僅かの期間に教育の熱が高まつたのである。それと共に、日本留學熱も高まり知識の追求が盛となつた。明治の末期までは、學校を出ると兵隊に取られると言ふ噂が専らであつた爲め、入學を躊躇して居た

が、大正に入つて、其の事實がなかつたことが向學心を助成したのである。斯くして、たちまちの中に、進學したくても入るべき學校が足らなくなり、一層留學熱に拍車をかけたのである。

もと／＼日本政府は、教育の門を狭くし、民智の高まるのを恐れた。ところが、漸く世界各地に民族解放の聲がやかましくなつた頃でもあり、臺灣にも其の例に漏れず、民族解放の運動は、文化協會、農民運動、工友會に依つて勃然として開始されたのである。

たゞ／＼優良教員の中には、熱心に教授法を改革し常識を廣めることに力を注いだので、こゝに臺灣有史以來最も教育の旺盛な時代を現出したのである。當時日本國內に於いては、盛に自由教育が唱えられ、しきりに歐米諸國の文化を導入すべく懸命に努力を拂つて居た時代で、これが又臺灣教育界に大きく影響したのである。どこも教育費をふんだんに計上し、教育視察は中々盛であつた。又實地教授研究會は最も重要な課題となり、優良教員への教授法に優れた教員は優遇され引張旗と

なり、自由思想は澎湃として起きた。臺灣教育界のもつとも活氣ある時代はこの大正年間であった。

日本政府は、この情勢を見て臺灣人の民族意識の高まるのを恐れ、ひどくあはて出した。

今まで週二時間あつた漢文の時間を全廢したのは此の頃である。次に臺灣人と日本人の共學制度（従來は別々の學校に入つて居た）を案出して、臺灣人の入學率を極力抑制するの策をとつた。これに依つて全島の中學校は半分以上を日本人にとられ、臺北師範學校、臺北二中はもと臺灣人の爲めに出來たものが前者は、入學率が三分の一に減り、後者は二分の一に減少した。

斯くて入學の比は、日本人は八五%乃至九〇%に對して臺灣人は三〇%から一五%が普通でありひどいになると僅かに三%高等學校、大學如きは入學者四十人に對して臺灣人は僅かに三人乃至二人しか採らなかつた。併しその結果から見ても、これは決して賢明な策ではなかつた。なぜなら、此の差別がはつきりして來ると却つて民族意識は

高まり、猛烈な民族解放運動に變つてしまつた。そして日本人に對抗するには、實力を以てする以外に方法がないことを覺り、特に差別待遇のもつとも甚しかつた教員、役場吏員、郡役所の官吏等は一番激しく對抗を開始したのである。

教育行政に並行して採られたのは、智識教育の抑制である。德育は人生活にとり最も大切なことで、智育尊重は輕薄な人間を作るとあつて、盛に行の教育を唱へ出したのである。斯くする中に、日本軍部は、如何に戰爭を造るかに没頭し出し、教育方針も徐々ではあつたが、此の線に沿うて軍事教育が取り入れられ、それにヤレ農業教育、ヤレ實業教育と肝心の物事を正しく見、正しく判斷する基礎となる常識普及や智育教育は輕視され、歐米諸國に對する敵愾心と排外思想の發揚に教育方針を持つて行つてしまつた。日本人の小學校は農業教育も實業教育もなかつた。

次に、小學校々長中三割の席を占めて居た臺灣人の校長の數も、昭和六年頃に至つて一掃され、全島たつた三名だけ残して他は全部日本人の教員



におきかえられてしまった。中學校以上にあつては、臺灣人校長はもとより皆無であつた。

この暴虐な教育行政下でありながら、昭和十年頃から日本人臺灣人の使用する教科書は、中等學校は同一であり、初等教育は僅かしか違つていなかつたことは、臺灣人の自學心の刺戟と、苦難を耐へて待つて待つて果てである事を認めなければならぬ。臺灣總督府は確かに、臺灣に國民教育を實施しようとし、又其の傾向は確かにあつた。併し臺灣人の知識欲と求學熱はよく之に打ち克つて、勤勉と謙讓、義務と責任感を身につけ、正しく物事を見、正しく物事を判斷する力ももつたのである。

永い闘争に亘る闘争の結果は、民族意識の發揚となつて現はれ、民族開放運動を招來した。今後これに更に、將來の臺灣の建設に復興に大なる原動力と發展し、故郷を愛する熱情と相俟つて、故郷の建設にも必ず熱情を傾けるに相違ないを確信して居る。

附記

學校教育と相俟つて家庭教育（躾）は中々重要な役割を持つ。臺灣の家庭の多くは子供を指導出来ない（教科書の程度がだん／＼高くなり内容も複雑となり、そして皆多忙なのである）併し、日本に見られない社會人として、どうあるべきかの態度は知らん間に、どの家庭も見落さず指導して居る。これが即ち、物を見る時の態度に現はれ、人に接する時の態度に現はれ、仕事をする時の態度にそれが現はれて來て居る。「無大無小」「無頭無尾」又多くの熟語が日常の訓育に、その時／＼の指導スローガンとして飛び出して來る。一見教育に無關心かの如くに見える臺灣家庭の主婦の態度は他處では絶對に見られない長所を持つて居る。それは、一口に言へば男よりも、もつと子供の將來の爲めに氣を使つて居ることだ。そして又中流以上では（臺灣は殆どが中流であつた）大抵孟子、孟母を知つて居り、「孟母の三遷」や孔子のことをよく知つて居て其の都度家庭教育に引例されるのである。この主婦の氣質のよさは、忙しく暮

らして居る男達には餘り分らないらしい。中國大陸婦人にもなく、日本婦人にも見られない此の主婦の態度こそは、臺灣の誇の一つだ。しかも臺灣女性は、流行を追ふことなく外形よりも實質に重きをおき、勤勉で貞淑だ。しとやかまは缺けて居る。だが浮氣でなく、しつかりと、地に足を下して、黙々と我が夫を、我が子を、我が身をよく護つて居る。特に全世界に誇るべきことは貞操のかたいことである。斯る婦人を母に持つ臺灣人は幸であつた。五十年間日本統治下にあつても、受けた教育をよく我がものとしてこなし、役立たせたのである。 つづく

一九四九年十月

少年易老學難成
一寸光陰不可輕
玉不琢不成器
人不學不知義

愛國の徒

王 博 華

最近、臺灣問題について國際間、亦我等臺灣人の間に於て、いろいろと問題化し論議されているが、我々臺灣人として、我々の前途は自由と平和にあるのみであつて、この自由と平和を如何にして得るかについては、我々同胞は一人として無關心では居られません。

人によつては國運存続は進歩的、或明正であるから良いとか、或は中共の新民主主義政策は民主的である故良いとか、亦臺灣自主獨立の方が良いとか、色々議論が分立して居りますが、皆様は、何を見、何を得て、出て来て語るのか、我等同胞には理解出来ません。單に相手の宣傳を見聞きして、その政策は良いとか、理想とする所があるから良い等と考へる様なことでは、餘りにも「風前燈火」で、餘り實際不高なことをと思ひます。

政策宣傳はたしかに進歩的で民主的なことを認めるが、それがどこまで實行出来るか、我等は考へるべき問題であらう。

我等臺灣人は、何が本當の自由であり、亦何が本當の平和であるかを、深く／＼認識しなければなりません。

我等の臺灣は、五十餘年日本統治下におかれ、如何に奴隷化され、差別待遇を受けて来たか、その苦しい経験、亦終戦から今日迄四年間の不幸中に、體驗し味つて来た諸々の事を思ひ、我等同胞はこれ以上外國では居られません。

國運にしろ、中共にしろ、或は自主獨立によるにしても將來我等臺灣人が、眞の自由、平和の目に達し得られるかは誰が保證出来よう。

ある一部の者は、何々言下にあれば十年先、或は二十年先には必ず臺灣人は、無上の幸福を得ることが出来る等と夢想して居るが、「孔子は明日の招待状でさえ引受け兼ねる」と言つて居る位なのに、今日我等が十年先、二十年先を見越して語るのには、餘りにも半鐘回を過ぎた非現代的な

と、思ひます。「八卦」の言葉の如く、「今君は苦勞をして居るが、老年になつたら幸福になれる」と言ふのと同様でせう。

未だ生れて來ない子を誰が當にすることが出来るであらうか。

今日、世界各國の政策論は一種の宣傳理論に過ぎません。それは自己の悪政を宣傳する馬鹿な政治家は居なからう。我等はこれを取引宣傳と言つても過言ではなからう。宣傳政策による此等の机上計畫だけで、世界の眞の自由、平和の目的に到達することが出來得るならば、誰も苦勞せず、亦不幸な戦争をせずに済むことであらう。

「口にお經を唱え、手に刀を持つ」世の中であることを忘れてはなりません。

獅子を捕えるには、頭を撫で、好餌を與え、機嫌を取つてから獅子を連れて逃げる事はあり得ることです。

如何に理想的な政策宣傳にも迷わされず、乗らず、冷静に深く考え、團結して行動する事は最も賢明なことと思ひます。徒らに個人の理想に走り

特に在日同胞の立場を考えず、同胞を抹殺する様な事のない様、重ねてお願い致します。亦、掛羊頭賣狗肉の事も止して頂き度いと思ひます。

臺灣紀行歌

焦 悴 兒

風絲々 草籬々	忽傳解放喜光復
乾坤不變世事移	那知暴政換陳儀
美麗島 地盤肥	二二八 連環殺
四時八節風景好	先烈志士盡西歸
春耕夏種足維持	英魂地下冤難訴
鄭先祖 費心機	望同胞 善爲之
整頓蓬萊稱寶島	建設自由開活路
教民以禮讀書詩	發揮敏腕救鬚眉
清朝官 壞東西	普教育 定章規
將我臺灣送外夷	政綱自主收權益
五十一年酸和苦	造成幸福莫遲疑
思祖國 暗傷悲	

—第十號華僑文化轉載—

解放の鐘

岳

静

黒潮躍る南海の
緑したる、常夏の
島に、鐘が鳴ります
町に、村に、山に
自主だ、獨立だと響きます

今日も鳴る その鐘は
自由が得たいよ
平和が得たいよ
安定ある生活が得たいよと
むせぶよに、鳴りひびく
鳴る鐘に、想出は浮ぶ
ありし日の、わがふるさと
静かな島だった
豊かな島だった

政治ある島だった

打ち続く その鐘は
我等の祖先を想ひ出す
思慮深く、聰明だった
もの分りよく、親切だった
そして、とても勇敢だった

鐘が鳴る 鳴る
緑の島に 鐘が鳴る
元氣を出せ 前進だ
あげよ、聲を高らかに
それ自主だ 獨立だ
臺灣あつての臺灣人
臺灣人あつての臺灣
この聲、この響き
六百五十萬、兄弟よ
これは臺灣人のみが分る感情だ

友よ 臺灣は

小ますぎると言ふのか

それでも 六百五十萬

もつと小さい國が五十もある

これでいい、それで澤山だ

三百年 我等は仲よく

同じ政治の下に

同じ經濟組織の下に

同じ社會環境の下に

聞くも いま／＼しい

被壓迫民族だつた

被征服者だつた

被統治者だつた、そして今も

虐政下にあるのだ

友よ築こう 我等の天地

優越感、偏見を許さず

差別 搾取もない

世界に喜ばれ、清らかな
希望の天地、すぐそこだ

友よ起たう 我等には

民族の争いもなく

宗教の争いもなく

風俗、習慣又一つ

感情の相異もないのだ

鐘が鳴る、鳴る

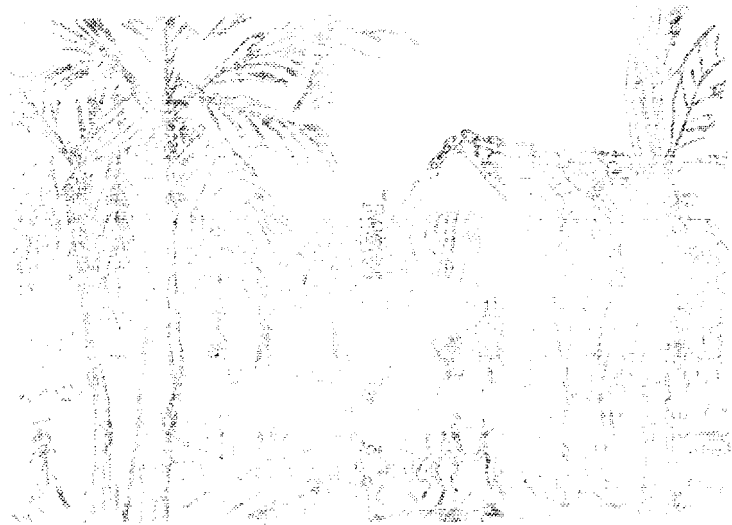
鐘の島に 鐘が鳴る

共同の責任を忘れまいぞ

共同の希望を忘れまいぞ

共同の運命を忘れまいぞ

——一九四九、一〇、五、——



臺灣の鑑

高

正

春は二月 本島の

こゝは眞北の 蘇澳街
バス待つ人が いそがしく
急にざわ／＼と 賑はへり

またりら若き 女轉手

いと美しき 乙女子の
バスのあちこち 調べける
年こそ若ければ 頼母しや

其の時なりき 群の

人相悪しき 軍人が
あら／＼しく 走り寄り
二人に向い わめきたり

道行く人も かけ寄りて
スハ何ごとよ よく聞けば
おろせよ おろさんと
打ち殺すぞと 責めたてる

大事な客を おろすとは
それは無理だと 答えける
かの青年は あはれにも
銃でつゝかれ 蹴られたり

月の始めに 弟も
奴等のために 殺された
かさなる恨み 忘れじと
齒を食いしめ こらえけり

許し給えと 健げにも
許婚をば 守らんと
血相かえて 走り來る
乙女の姿 痛ましや

戦終りて 臺灣は
平和訪れ 我等にも
自由の天地 開くかと
淡き望みは 夢なりき

噫、この三年 暴虐の
あくなき搾取 獨裁に
望みすてたる 島人は
神さえうらむ あはれまよ

殺人、強盜 それまえも
裁判を受けず 彼等には
打つ外なしと 客は皆
顔色かえて いきり立つ

許し給えよ お客様
ご無理ですが この通り
やさし青年 あやまれば
皆聲なくて 下り立ちぬ

まゝよと暫し 乙女子を
木かけによびて もどかしく
遺書をば書きぬ わが妻よ
體に氣をつけて いざさらば

バスは去りたり 其の後の
何時もと變る 胸さわぎ
急ぎひらけば こは如何に
往きて還らん おき手紙

長き年月 父母は
われをばぐくみ 育てたり
高き御恩も 報いずに
許せ父母 この罪を

去り行く車 見送りて
よゝと泣くなり 乙女子は
これぞ此の世の 別れなる
はつたり其の場に 倒れけり

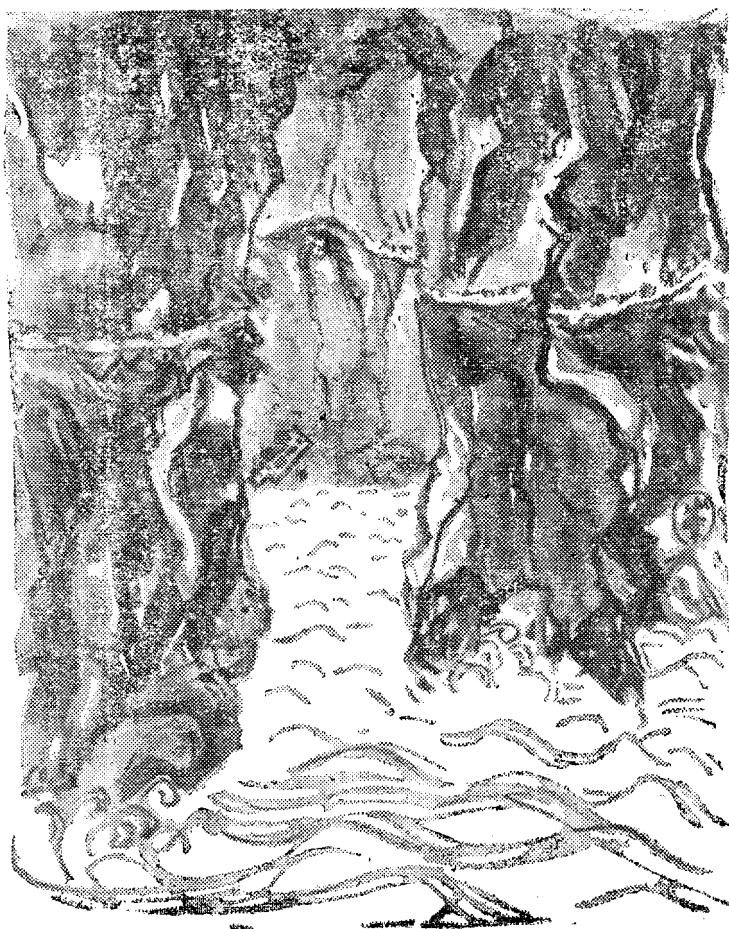
おい皆見たか 臺灣の
弱き車けら 奴隸ども
面白かつたな あの時は
愉快だつたな あの時は

聞かぬもなしに 耳に入る
其は雑言 けれどせは
臺灣男子だ 今に見ろ
握るハンドルに 血は湧きぬ

臺灣をたもて つかの間は
こゝは名に白ふ 天下の師
見よ中國の 軍人も
あはて、ふためき しがみつく

上はそゝり立つ 岩と岩
下は千仞の 塵埃の海
けかしき道な 青年は
笑みさを湛え 靡々しくも

Declassified in Part - Sanitized Copy Approved for Release 2012/02/23 : CIA-RDP83-00415R005600090001-9



Declassified in Part - Sanitized Copy Approved for Release 2012/02/23 : CIA-RDP83-00415R005600090001-9

積年の恨み 今こそと

車もろとも 一行は

二十六人 あの世へと

まか巻く海に 躍りけり

まか巻く浪頭 おさまりて

恨みは深し 東海岸

神となります 丈夫よ

南の島を 護れかし

遺恨三年 丈夫は

生きて還らん 旅に往く

聞くもの皆 悲しくて

悲憤の涙 湧きいでつ

雄々しき君の 英靈は

光りかゞやく この島に

人の鑑と 残るべし

あな尊しや 何時までも

註

これは、二、二八革命直前に起きた「臺灣青年の美談」として、當時臺灣全島の、老若男女の涙をそゝつた實話である。

一、二八革命は、それから三日後に起きた。

二、二八革命は、終戦以來、三年に近い間の暴政に起因して居ることは言ふまでもなく。その直前に起きた此の實話も、又その原因をなしたことは明らかな事實である。

臺灣全島、この種の美談は至る處にある。併し一人對二十六人を、しかも劍銃を持つ軍人を相手に、一身の犠牲を顧みず、敢行した此の行爲は、全島の青少年の血を湧き立てるに充分であつた。

一度此の報が傳るや、各地からの弔慰文、感謝文は山をなし、全島の津々浦々から、家族の生活維持費にと送られた遺族への生活費、香奠は又未曾有の巨額に達したと聞く。これは、言ふまでもなく、臺灣本來の正義感の現れであり、又臺灣の再解放を熱望する島民の聲と見るべきである。作者は遙かこの日本の地から、青年の英靈に感

謝の意を表し、且つその冥福を祈ると共に彼の遺家族の幸福を祈つてやまない次第である。尙ほ、この材料を提供された同胞の好意を謝し、臺灣再解放の一日も早く實現されむことを祈る。

一九四九、一〇、一五

同胞を迎えて

名古屋 張 添 丁

昨年中、故郷臺灣から來たバイヤは五名、其の後、特に今年になつて、觀光團、バイヤの數が急に殖えたことは喜ばしいことではあるが、残念ながら、彼等から故郷の近況を聞くことは不可能です。

新聞紙上に發表されたところを見ると、どれもきまり文句の様に「臺灣は暮らしよくなつた。政治もよくなつて來て居る。獨立を希望する者は少ない」と言ふのです。如何にも皆約束して來たやうです。在日華僑總會が「日本には臺灣獨立の運

動はない」と言ひ、某新聞が、臺灣の獨立運動はデマだ、臺灣省民はこの種のデマに惑はされてはならぬ」と言つたのと不思議にも一脈相通するところがあります。なぜ、事實を否定してまで大衆を欺かなければならぬのか。私の知つて居る同胞の多くが激憤したのも無理からんことです。故郷を遠く離れていても、大抵の事は知つて居る、本當であるか偽りであるかは一讀すればすぐ分ることです。臺灣人として、特に青年層の方が憤慨するのは當然なことであります。

併しこゝに一つの問題があります。

第一、彼等は普通の人では中々出來さうにない渡航證明書を臺灣政府から貰つて居る。

第二、めつたに許可されない臺日貿易業者としての地位を獲得して居る。この二つの特點を手に入れるのには、並々ならん努力がいるし、相當な時間と金錢を消費したことであらう。そんな事は決してないと辯解する必要はありません。どうせ相手は國民黨の官吏だから何かの密約と相當な條件があつたことは諒解出來ます。時にはいやなが

ら心にもない機嫌を取つたこともあり得べきこと
であります。しかも、用談が済んだら直ちに臺灣
に歸る體です。だから、臺灣の實情、特に獨立運
動のことについて話せばは理解せんやうです。

臺灣には言論の自由がないこと、現に崩れか
ゝつて居る國民黨政府にあつては、さつぱりとなつ
て汚名を取り返さず、臺灣同胞の機嫌をとらう
し、一面秘密裡に反對者や、不利な言論を取締ま
るのに狂犬見たいに慘虐を極めることもあるので
す。だからこそ、パイヤ、觀光潮は揃ひも揃つて
政府を責め、すばらしく景氣がいゝと宣傳して居
るのです。或はパイヤや觀光潮の腹の中では臺
灣の實情は同胞がよく知つて居るから、私等の言
葉も「ツソも方便」式であること位は理解してく
れるであらう、とのつもりかも知れない。何れに
せよ、何かあるに違いないが實情を詮議する必要
もありません。それを胸に收め、氣にすることな
く、寛大なる度量を以て新來の同胞を迎えること
が大切だと思ひます。私がこんな事を言ふと、御
立腹なさる方があるかも知れませんが、併し私も臺

灣を愛し、同胞を愛して居ればこそ、こんなこと
を主張するのであります。臺灣の物價の恐ろしく
向くなつたこと、同胞は皆不満であること、御用
商人や同僚紳士坂井の生活はひどいこと、失業者
の多いこと等は耳が痛む程聞いて居ります。知つ
て居りながら聞きたがるのは人情でもありま
せん。いや何かの大きな變化が……として幸福にな
らうと……明かす時、て言ふことも又正當であり
ます。在日同胞の斯る氣持を無視して心にもな
い、偽りを發表することは大いに責めるべきには
違いないが。そこは理解と愛を以て寛大な心持ち
で迎え、そして我等日本在住同胞の愛郷心や意氣
を知らせて安心させることがより以上に必要なこ
と、思ひます。此の方が却つて間接ではあるが臺
灣の爲になります。生れ故郷を忘れる者はない筈
だから、必ず島内の同胞に傳えてくれることと思
ひます。

意見はないかとの御手紙に接したが、意見は澤
山あるがさてとなると何を書いていゝやら見當
がつかない。若君と若君に返事したやうなこと
をこゝにまとめておたづねの返事とする。

(十月三日)

「華僑文化」第十號に呈す

京 都 陳 慶 芳

在日華僑一部の日和見者主義者は、在日華僑總會に陣取つて、臺灣省の自治を唱へ、自らの郷土臺灣の遭遇する現下の悲惨な現状打開に身を投ずることを避け、直接身を以て、臺灣の難局打開に身を挺して居る臺灣同志の分裂を企て、居る。彼らが若し臺灣人たるの自覺あり、眞に臺灣の前途を憂ふる者であるならば同胞の團結を促進こそすれ、殊更に分裂を來すが如き言辭は慎むべきである。それは今、臺灣が空前の難局に瀕して居り、國民政府殘存政權の好餌として、蝕れつゝあるからである。

彼等の言ふ臺灣省の自治とは何か？それは、臺灣人が現在國民政府の殺戮下にあつて悲惨な生活をつづけて居る事態を黙視することを意味する、何故ならば臺灣人が臺灣に在つて受けて居る苦痛は彼らに、何らの關係をも持たないからである。

彼らは、過去に於て、日本帝國主義と妥協し、協力し、勾結して、極めて安逸な生活を日本帝國主義の庇護下を受けて來たからである。それと同様な生活を國民政府の下にあつても得て來たからである。そこに彼らが華僑總會を根城にする必要性を生ぜしめたのである。今國民政府が崩壞の寸前にある彼らの唯一の取りつく島は、臺灣省の自治といふ欺瞞行爲である。彼らは「中共陳毅が、明年の夏季には臺灣を解放してくれることを力説して居る。來年の夏季迄、國民政府の臺灣に於ける殺戮、掠奪を認め、然る後に内戦の戦火を臺灣にもたらすことを認めて居る、中共に依る臺灣の解放迄彼らは手を拱いて、安逸な生活をつづけ、中共に依る解放成る頃と見計つて、彼らは臺灣省の自治を以て、中共に迎合しようといふ段取りである。彼らの現在の地位から斯る必然性は我々の充分に看破し得る所である。我々は、臺灣が達着して居る現在の重大關頭にあつて徒らに同胞相食むが如き言行は避けなければならぬ。何故ならば臺灣の現下の苦難を解決し、國民政府を驅逐する

ことが目下の急務であり、一大團結こそ、最も重大な事柄だからである。

我々はこれらの人達が再び臺灣人の自覚の上に立つて、速かな反省をすることを促す、そして速かに臺灣解放戦線の一翼に馳せ参することを望む。

臺灣の人民は、後らが統一陣營に身を投じて来ることを迎えるのは些かもやぶさかではないであらう。

臺灣同胞が我々に、臺灣人がより正しいコースへ進むためには同胞々禁自らの批判、叱責なくして、臺灣解放の目的は、到達されない。これが臺灣解放運動戦士の基本態度でなければならぬのである。

然るに「華僑文化」第十號紙上にある「臺灣獨立運動的錯誤」と題する一文は、これを同胞間に於ける叱責と讀み取ることが出来るだらうか？

我々は臺灣大衆の一人として、眞摯な態度でこれを批判して見たい。

・、臺灣獨立運動は外國の策動を受けて居る。明

らかにこの言葉は、同胞の分裂を策して居るとしか思はれない。これらの人達の言ふ某國の策動とは何か、漠然とした攻撃は我等大衆には納得し難い。具體的な事實をあげ、それが本當に某國に利用されて居るのならお互に是正してやるのが本當ではなからうか、若し自らの地位と安樂を保ちたい爲に斯く言つたものであるとしたら、この人達こそ臺灣大衆に取つて許し難い破壊者である。

、この人達は次に、臺灣の獨立は到底不可能であつて臺灣の自治こそ、臺灣のあるべき姿であると長々と述べて居る。そして無謀にも臺灣は國際紛争の焦點であることを強調して、獨立を否定して居る。獨立とか自治とか言ふ問題は、一應さておいてもこれに先立つて臺灣自ら解決しなければならぬ問題のあることを忘れて居る。それは、國民政府を追い出し、その軍隊を消滅させて内戦の脅威から臺灣を守ることである。この人達は、この問題に觸れようとせず、揚句は國民政府に、臺灣の解放を期待し、臺灣

省の自治を國民政府に進言して居る。彼らの意圖が奈邊にあるかは、我々の充分察知しうる所である。

臺灣の獨立を絶叫して居る人達は、過去幾多の苦難を踏んで來たことを我々は知つて居る。彼らが、若し某國の策動と、援助の下に動いて居たのなら、彼らは決して苦難を経て來る必要は毫もなかつたと思ふ。彼らの一念は、只臺灣を思ふが故に、臺灣人自らの手で解放を得ようとしたことにのみ奮闘して來たものと信ずる、彼らの一貫した信念と、熱意は、私達臺灣人の齊しく敬意を表するところであり、最も我々の意を強うするものがある。私達の知つて居るこれらの人達は、個人の生活をすら犠牲にして、日夜奮闘して居る。

私達はイズムの相異から臺灣の現状を早急に解決する努力を失つてはならない。況んや個人の犠牲を避けることに於いておやである。

三、彼らは更に獨立運動に投ずる人達が中國領土の一部であることを忘れて居ると言ふ。

私達は獨立運動の戦士が漢民族の自覺の上に立つて居るからこそ、この果敢な臺灣解放運動を展開し得るのだと信ずる。今更臺灣人が、漢民族であることを強調して、臺灣の解放を延ばす必要は殊更になからう。それは、これらの戦士達が掲げる綱領、政策に依つて十分に理解出来る所である。

四、更に託管問題を獨立運動と結びつけて居る。こゝに至つて、これらの人達の惡測な分裂企圖が窺はれる。臺灣の託管問題は、臺灣人の齊しく忌み嫌ふものであることは三百餘年の臺灣革命史が如實にこれを物語つて居る、これを以て云々するものがあるなら、それは第二次世界戦争後の新しい國際情勢を知らぬも甚しく、世界平和の爲に出來た國際公法への冒瀆である。臺灣の託管問題を殊更に取りあげて、問題化さす者があるとしたら、第三次世界戦争の責任は彼に歸すべきであらう。如何なる背後勢力を持つた臺灣の支配も飽迄これを排除することにこそ、努力を拂ふべきであり、挑發的な言動は、

同胞の分裂を策する以外の何もでもない。
同胞諸君！ 私達は現下の臺灣現狀を憂ふるの
餘り、大衆の一人として、一文を寄せたのだ。
神に言葉を尋ねることなく同胞の分裂を避け
ようではないか！ 今臺灣同胞の一人一人が
喜んで、臺灣解放の犠牲に投ずるべき時機であ
る。我々が中華臺灣を救ふの責任を言ふら
う。に誤つた巧利主義に道を迷らうとした人達
の反省を促すと共に、臺灣解放陣營への積極的
な貢献を望まれないことを熱望してやまない
臺灣解放萬才！

時事解説

編輯部

（一）東南アジア民族を解放するもの

香料貿易のポロ儲けを目ざして、冒険的なヨー
ロッパの商人達が東洋の島々に居場を築いてから
三百餘年、東南アジアの豊かな熱帯地帯は西歐諸
國のドル箱となり、おとなしい數億の原住民は、
彼らにもつとも安んじ労働力を提供して来た。だが

二つの世界大戦を通じて、アジアの人民は次第に
目醒めた。特に第二次世界大戦で西歐植民地國家
の人民勢力は赤道をはさむ國々にも盛り上つて來
た。東南アジア民族運動のたくましい前進を阻む
事は、もう誰にも出来ないと、しかるをれば外から
の支配勢力を追い出そうとする方に、内部の腐い
勢力を倒す方が、より有利である。北はヒマラヤ山脈から南はジャバ島に至る地域
が今夜明け前の嵐の中をまっしぐらに進んで居
る。

東南アジアを解放するものは誰か？

我々はこれを客観的に外國勢力と、現地政權と
の衝突の三つに分けて見よう。そして
正しい主權的立場の上に立つて、自らの努力す
べき方向を再確認しなければならぬ。

一、舊帝國主義の死後と外謀のみ

たしかに戦前と同じ様な植民地體制はもうアジ
ヤに知用しなくなつた。

二、米國は約東通りノイリッピンに獨立を與へた。

一九四六、七、四、舊植民地國は印度に、印度

も蔣政權の湯恩伯軍に従つて居る柴山兼四郎元中將も介在して居るらしい。

「東京都南多摩郡鶴川村の根本の留守宅です。子夫人は語る「主人は非常に釣がすきで釣道具を旅行鞆に入れてよく出掛けますが、何處にどれ位居るかは話しません。行く先々で元の部下にお世話になつて居ます。現在主人は約二ヶ月前から旅行に出ていますが間もなく歸る豫定です」(九、一三、UP、世界經濟)

二ヶ月もかゝる釣ではさぞ大物がかゝるだらうが、根本の甥に當るスタイル社長、北原武夫が友人某に語つたところによると「根本の臺灣行は眞實の話で、日本人の中國軍参加はずつと以前から行はれて居た模様である」と日本紙は報じて居る。

根本らを援助したものに兒玉譽志夫が居る。兒玉は戦時中、華中の日本派遣軍に兒玉機關として知られた、特務機關の親玉であり、天津生れの李生源(父は汪精衛偽政府の要人)と提携して盛んに密貿易をやつて居るとの噂があり、福岡の日本

人と連絡して、六月下旬、鹿兒島縣で兒玉の舟は根本等六名を乗せた。出帆開際になつて其の密航は發覺したが、この次第を長距離電話で柳橋の藝者屋に居る李生源に告げたので、急を聞いてかけた李によつて萬事解決、やつと舟出した一幕もあつた。

更に別の日本紙は「日本義勇軍の臺灣渡航には下關の老舖林兼(大洋漁業)の船を使用し、臺灣附近をうろくして居るところを國民黨軍が拿捕を裝い、人間だけ抑留する形をとる」にも傳へられて居る。

九州と言へば宮崎縣には元中將、櫻井徳太郎が「元部下二十萬を動員して蔣介石を援助出来る」と力んで居り、今年の春、上海から特殊任務を帯びて日本にやつて來た羅文(G、C系)と、元中將、佐藤玄一(中國名左玄龍の紹介で會つて居る)。

横山雄偉とは

李世明が茅ヶ崎で會見した日本人とは、右翼浪人横山雄偉のことである。横山は小學校しか出てい

ないが、玄洋社顧問として元日本軍部と深い関係に有り、巢鴨を出て間もなく、國民政府に連絡をつけて居る。辻政信や、元アルゼンチン公使の山形清とじつこんだつたと云ふ。

かつては政教社の増田一悦（バックは山岡萬之助）ともよく、久原房之助の情報係をつとめ、日本軍内部では「アドバリン」のあだ名で通り、今では松井昇で知られ、中島敬昭にも接近し、東京の溜りにして居る内幸町東拓ビル地下室には、菅沼タイプ社長など取巻連がドグロを巻いて居る。

吳鐵城の渡日

蔣介石の命を受けて日本に來た吳鐵城は、幣原喜重郎や、社會黨の鈴木茂三郎、安平鹿一と別々に會つた外、十六日には箱根で横山と會見した。二十二日廣東に戻つた吳は、途中香港で國民政府が「元日本軍人も志願し得る外人部隊の計畫を進めて居るかどうかは知らない」と語つたのち「國民政府は十五萬の元日本人捕虜が中共軍と戦つて居り、更に十萬人が國民黨の爲に戦う事を申し出

た事は知つて居る。併しこの申し出は受け入れられなかつた」（ブラザヴィル二十二日放送R.P.）と云つて居るから、問題の義勇兵は五百人どころの騒ぎではない事が判る。

募集された飛行士の合法的渡航方法

「これからの大部分（日本人義勇軍飛行士）は砂糖工業の技師として臺灣渡航査證を入手したと傳へられる。また彼らは、元中國航空會社の航空士で、終戦時に北京から、臺灣に脱出した景山太郎の指揮下におかれて居ると傳へられる」（「世界經濟九、十三」）

これ臺灣への渡航は、對る合法的方法も使はれて居る事を示唆して居る。指揮官と傳へられる景山太郎は、戦時中高官搭乗機専門のパイロットであつた。

尙或る日本紙は村部繁一（杉並區阿佐ヶ谷五丁目五一）も義勇軍狩り出しに暗躍してゐる人物の一人である事を報じて居る。

「村部は戦時中東北（滿州）から華北、漢口の

特務部で働いて居た男で、終戦當時上海に戻つた湯恩伯の顧問、歸國後も湯恩伯の密命を帯びて歸つたと言ふらしい。

「同志」の宮良孫康（新宿區新宿二丁目星康藥局主）から生活費や活動資金を貰つて朝早くから夜遅くまで、多忙を極めて居る。彼は六月二十一日マンマと中國人になりすまし、査證もとつて、翌日旅客機で臺灣に飛ぶ所を一切がばれて失敗した。宮良は、終戦時湯恩伯と關係をつけて、上海に製藥會社を創立する計畫に失敗し、今年春には、沖繩向けの密輸を企て、宮古島で捕へられ、三ヶ月抑留、損失金額數千萬圓に及んだとの事である。

今これら一連の主謀者は臺灣民衆の手によつて引きずり出されようとして居る。更に注意せねばならない事は、これと同じ様な日本のファツシズムが到る處に轉がつて居る事だ、官廳に、新聞に刊行物に、學校に、商社に、街頭に、電車の中に果ては日本人家庭に至るまで、今の日本の支配階級によつて日本ファツシヨ化は濫醸されつゝある。

我々は美しい國土を蔣政權と結托する日本舊軍閥の泥足で再び踏みこじられてはならない。

我々は斯る事實のなくなるのを見届けるまで、彼等が我々に強いた過去の物的、人的、精神的掠奪に對する清算がすむまでは輕々しく彼等との提携は出來ない。何故ならば、彼等の手は尙同胞の血で汚れて居る。其の手を懐にして、再び臺灣に乗り込まうとして居るからである。しかも日本人大衆が此の事實を知りながら、喝采をしないまでも黙認し去らうと云ふ此の時期おいてをやである。

比島に臺灣獨立支持を要請

マニラ十三日發UP—共同

十三日香港からマニラに到着した臺灣獨立運動の指導者、廖博士は、臺灣獨立運動に對する比島の支持を要請して、つぎの様に語つた。

國民黨政府の臺灣擄取は、あくらつて恐怖政治を行い、言論、集會の自由はなくされて居る。これでは臺灣が中共の手に落ちることは不可避である。

臺灣便り

地下に潜つた臺灣青年同志の手に依つて、發刊されて居る旬刊紙「臺灣青年」から、最近入つて來たニュースを二、三拾つて見よう。

(一)、劉啓光ら一味島外への逃亡を急ぐ、私達の最も憎むべき、劉啓光、黃朝琴、李万居、林頂立、游爾堅らを中心とする臺奸第一號一味は最近陳誠僞省主席に、軍米徵發の緩和を遂行したかどで陳誠の逆鱗に觸れ、自ら軍閥に依る監視を招いて居る。

二、二八臺灣人民驅逐の最も功績あるものとして、蔣介石、陳儀の賞讃愛撫を受けたこれら一味は、現在の苦情を高雄鳳山に居る孫立人に訴へ、臺灣人民からまき上げた莫大な財産を投じて、島外への脱出を企圖して居る。二、二八の尊い生靈は悉く彼等の提出したリストに依つて、棄はれた事を我々は忘れては居ない。我々は、彼らが臺灣人に依る裁判臺上に立つ日迄は、彼らの一舉一動

投足に監視を怠つてはならない。
註：劉啓光、元新竹縣長、原名侯朝宗、現華南商業銀行董事長、國貨公司（菊元）董事長、陳儀の個人秘書として二、二八、所謂「匪徒名單」を作成した。臺南縣人。

李萬居、現臺灣新生報公論社社長、臺灣僑參議會副議長、臺灣僑省政府の機關として、宣傳を続け、臺灣人民を愚瞞して居る。臺南人。黃朝琴、現臺灣省僑參議會議長、臺灣工商銀行董事長、臺灣省僑民黨機關の首領として、僑政府の代辯を續けて居る。臺南縣水堀人。
林頂立、現全民日報社長、臺灣機關の副主、彼の上に據つて殺害を受けた若い同志は、孰れな

い程有る。現に、全民日報社々屋は、二、二八の後、強暴な手段で民衆から奪取つたもの。
游爾堅、僑臺北市長、臺灣省僑教育會理事長。右の首魁は、何れも臺灣出身者である。彼らは抗戦八年の勇士として終戦後、重慶歸りの威を借りて、票價の限りを盡した。
劉氏は正副に、當は富商賈、游は元臺北一

裏に、何れも戦後資材入手難の中に在つて、豪莊な邸を新築して妾をかこつて居る。

(二) 延平大學教授、學生再び逮捕、行方不明となる。

二、二八右往左往して居た學生の中に在つて、最も勇敢に學生の領導に當つて來た延平大學は事件後直ちに、閉鎖の彈壓に遭つたが、其の後燃え續ける青年の熱押へ難く、去年七月、再び臺北市濱町の一角に復校したが、去る八月半ば、朱院長ら數名の教授が、何者かに連れ去られ、杳として消息を絶つに至り、不安を感じた學生が其の行方の追究に當るや、再び彈壓に遭ひ、其の後、同大學の教授、學生の逮捕は今も尙續けられて居る。しかも、臺灣大學師範學院其他、高中の學生に至る迄、手厳しい捜査を受けて、學校は殆ど休止の状態に至つた。終戦後日本外地から歸臺した多くの學生は、腐敗した國民政府の虐政から向學の道をすら絶たれた。此等青年學徒が、闇の中に光明を見出さうとして熱烈な臺灣人民の據金に依つ

て、臺北市東門町の一角に創設されたのが同大學であつた。其の後此等學生は、臺灣省出身の教授を圍んで、深更迄革新の烽火を燃やし續けて來た。幾多の彈壓と暴虐に會ひながらも眞理追究の火を絶やさなかつた。此等青年學徒の烽火は、臺灣解放の烽火として燃え續けて居る。

(三) 偽商務代表日本で同胞の分裂を策す。

官僚資本の走狗になり果てた一部の「發光復財者」は臺日貿易の促進に名をかり、日本に居る臺灣同胞の革命意識を鈍らせようと色々の談話を發表して居る事に氣をつけなければならぬ。陳誠が彼らに渡日を許した第一の條件であり、任務は全臺灣同胞の團結を分裂させ、各個にこれを撃破する事である。歸つて來た彼らに對する監視は勿論、日本に觀光團として行つた彼らの言動にも充分な注意を拂ふべきである。

五十年間、同胞の汗や血の結晶に依つて出来たものを日人政府、日人會社が我等から強制買上げ、強制寄附に依つて搾取したもので當然臺灣人の手に返すべきか、臺灣島民の共有財産であるべきであつた。莫大なこれらの物資は強權のもとに一つ残らず剝奪されてしまつた。敵産も限りあり、すぐなくなつてしまつた。今度は、民間の私有財産に目をつけ出した。たちまちの中に恐喝の旋風が全島を覆うた。日人に協力したと言つては多額の金品を強要された。氣に食はぬと言つては投獄し金品を捲きあげた。總べては金次第であつた。法律も金の前では無力であつた。これに協力し掠奪を容易ならしめ、悪智恵をつけたものは臺奸の一群であつた。彼等は又警察を使驅して自己の富を蓄積することも忘れなかつた。同胞の非難攻撃は猛烈を極めた。併し富を得る喜びの前には悉くが無効であつた。彼等も又、情も涙もない悪鬼の類に過ぎなかつた。彼等に使はれた警察の幹部は、臺灣で曾つて「靴なほし、洋裁屋、コック」が大部分を占め、無學文盲が多く、法律の分るやうな

「しろもの」ではなかつた。それに、どう猛で慘虐性に富み、金次第で萬事を處理して恥を知らなかつた。彼等は同胞から金品を捲きあげては、上司にもその分前を與えるのだつた。臺灣同胞が彼等を集團的強盜だと罵るのは、それだけ十分に理由があるからである。在日同胞は、何故抗議しなかつたか、訴訟しなかつたかと反問するであらう。だが悲しいかな臺灣には法律がないのだ。法律を持ち出して抗議したら、政府に反對する者として死か投獄を覺悟せねばならん。最近死を覺悟して、同胞の自覺を喚起したり、或は臺灣の解放を期した同胞の中には、數多くの者が投獄されて居る。五月上旬には學生の大量逮捕があり、八月中には中堅層や學生の大量逮捕があり、十月に入つて上層部其他の大量逮捕があつた。現にも其の逮捕は繼續されて居る。それ程の臺灣である。常識では判断出来ないのである。

在日同胞は直接の被害者ではないにしても家族親類、親戚、友人が現に苦しみ歎いて居る。「臺灣の自治を要求すべし」の聲も時々耳にするが、

一體誰を相手に自治を要求するのか。何時になつたら其の時が来るのか、我等には見當がつかない。蔣介石は、臺灣人を相手にしないのを御存じだらうか。我等は今、蔣介石一派の官民数百万人に衣食住を供給して居る。おまけに氣に喰はんと言つては、好かん人だと言つては投獄し斃殺してしまふのだ。一體誰に自治を要求しようといふのか。臺灣は、おまけして行く。今は重慶である。これ以上堪えられない體ではない。息が詰りさうである。我慢せよとは餘りにも慢罵である。親や父や兄弟や友人を見殺しにしておけるでせうか。潮れかゝつて居るのを傍観出来ぬ苦である。このまゝでは萬世人の奴隷になるより各はない。奴隷になりたくないのなら起たう。起ちあがつて臺灣の解放をやりなほさう。それには一大手術以外には方法がないのだ。「具樂は日に苦し」かも知れない。併し後々の爲めになるのなら、此の途は前すべきではない。「一大手術とは、主權を獲得することである。主權を獲得するとはいふに獨立だ。主權を獲得した印度、ビルマ、インドネシア、セイ

ロンの活氣を見給え。そして其の將來を想像し給え。主權のないところに民權も、平和もあつたものではない。

我等同胞六百五十萬人の爲めに、我等の親の爲めに、兄弟の爲めに、子孫の爲めに、臺灣同胞は心を一つにして臺灣を救ふなければならぬ。心を一つにして、自由と平和を熱望する同胞よ、起たうではないか。起つて臺灣同胞の悲惨を救はねばならぬ。

重慶の上、自由と平和を熱望する同胞よ、起たうではないか。起つて臺灣同胞の悲惨を救はねばならぬ。

一九四九年十月



臺灣青年に直言

王 眞 人

嵐の吹いた後は、静かになるのが自然現象である。然るに嵐が吹き去つても、なかなか静かにならないのが俗世の現象である。

惟ふに臺灣光復以來の現情、これを在日臺灣同胞の最も聞きたい、否見たい一つであらう。五十有餘年、日本台風が吹かれた後、今又もや一層強力な台風が吹かんとして居る。故郷に在す我が親、兄弟達は何とかこれを支ようとして、毎日苦勞して居る事を、諸兄は果して知つて居るだらうか。我等は一部を風の便りに、又一部は、恰も先見的な目を以てゐる様な人の言を借りて、空想を畫いて居るのみである。

筆者は物價の變動を常に興味深く見て居る。それは筆者をして臺灣を懐しく、ホームシックの念を起させるものである。それは何か、即ち目下毎日我々の目前に、否口にして居る甘藷である。曾

つては豚の餌となり、アルコールとなつて誰一人餘り口にしなかつたものが、今では物價廳の統制下に保護を受け、日常のエネルギーを作り出す一端を擔つて居るではないか。よくも甘藷がこゝまで價値を生じて來たものだ。諸君、甘藷の味をよく知つてゐるだらうか。

故國臺灣のあの形、噫、何にか例へむ、我等の外形は甘藷のものでありその味とは臺灣同胞の氣質そのものであると云へよう。一體臺灣はどうなる。これは獨り同胞のみの疑惑でなく、世界注視の的である。

前述の如く今までアルコールか、豚の餌にししか供せられたものが、何故今日これが全日本人の生命の一つとなつた。運命の心理は動植物共同様でなからうか。臺灣の位置、内情を知れば知る程、教へられる事が多い。我々は果して、今の臺灣の現情を、その儘放置して良いだらうか。青年は理想なくしては若まはない。然し青年も何時までも若まを維持出来るものではない。若まは只一つのイデオロギーであつて、それが實行と關聯したも

のでなければならぬ。

臺灣の現情を若し映畫に現實化出来たら、我等の眞理も一つであらうが、残念なことだ。臺灣は地圖の上では、あるかなきか位な存在であつたものが今はどうでせう、決して甘藷の配給が多かつた所以ではない。せめて志あるものは、必ずや知るべきである。

筆者は來るべき嵐を恐る、如何にして我等はこれを防ぐべきか、これは只「やらう」だけでは防げるものではない。今この台風が近邊にある以上我等は常に之を除くべく努力せねばならない。まもなくば東洋の平和、否世界の平和は望まれぬ。如何に臺灣青年の使命の重いが分るであらう。

臺灣の再解放なくして中國の統一はないであらう。又臺灣再解放なくして臺灣人に對する、各國人の見方も變つて來ないであらう。

否臺灣再解放なくては臺灣は永遠に忘れられてしまふであらう。臺灣青年諸兄よ!! 我等は臺灣を只世界の樟腦、バナ、の名産地だけとして終ら

せてよいものか、勿論武力的鬭争を主張して居るのではない。文明世界の今後の行方は、一筋のみである。我等もその線に沿ふて行かねばならない。

或る星地球上の土地は神の創造かも知れない。然し人間の努力如何に依つては土地の形を變へ得ないとしても、その土地を表明する産業、文化、其他人力で出来る部門等は出来るのは當然で疑ふべく筈がないのである。疑ふよりも努力の不足を自覺せよ、一體臺灣はどうなるだらうと考へる勿れそれよりも、臺灣を如何にすべきかを考へよ。之が當然である。どうせ何とかなるから、人に任せたら良いだらうと思ふ人があるかも知れない。若し多少なりとも、こんな考へを持つ人が有れば、それこそ同郷人として扱へないと思ふ。國破れても山野あり、と云ふ人があるかも知れない、併し何れにしても只今苦境に陥ちてゐる親、兄弟を如何に助けるべきかを考へれば自然に生れて來る心理がある。

筆者は現在の臺灣を見て、誠に感慨無量のもの

がある。何とかして砲火からまげられないかと考へざるを得ない。總ては天命とは言ふものゝ、これだけ辛酸を嘗めても未だ前世の罪が償へないものか……

臺灣青年諸兄よ!! 黨派を考へる勿れ、我々は只々如何にして正に來らんとする砲火を、去らせべきかを考へて欲しい。更にこれを去らせしむるには如何にすべきかを考へなくてはならない。女々しき振舞を出す勿れ、人に任せたらよい、己一人ではどうする事も出來ないと考へる勿れ。更に疑ふ勿れ。物事の成就如何は、一人くゝの努力の多少に比例する事は敢へて云ふ迄もないであらう。總ての私事は自分で解決せねばならないと同様に、臺灣の問題も必ず臺灣自身で解決せねばならないと思ふ。この解決の原動力は臺灣青年ではないか。さもなければ、臺灣も場合に依つては世界からシャットアウトされるであらう。その時になつて我々は何で臺灣に對する自覺を失ふぞ。筆者は敢えて、青年諸兄等に直言したいのである。

一九四九年吉日

臺灣解放自由歌

一、親愛臺灣 錦秀山河

先烈的開發地

以汗以血 共同爭取

臺灣自由平等

親愛同胞 双全智勇

遠東的新光華

爲民爲國 一齊擁護

臺灣自由平等

二、親愛臺灣 四海謳歌

以信以義 團結推進

永遠世界和平

親愛同胞 民主前鋒

世界的東南風

爲弱爲小 同盟支持

永遠世界和平

編輯後記

◆本誌は故郷の遭遇する惨状を一刻も早く解決したい在日臺灣の中から生れたものであることを重ねて強調したい。稿を寄せて頂いた諸兄達の胸中も只此の一事あるのみと思ふ。具體的な方策等貴重な文獻も寄せられた。

併し稍々もすれば、客観的な人間社會の自己運動を等閑視して、誤つた方向に主觀的努力を注ぎ込む様な錯誤を犯して居るかも知れない。併し我々は決して錯誤を指摘され、これを認めて是正し、清算することを恐れては居ない。何故ならば其れによつてのみ眞の路線は見出し得るのだから……

我々は更に自己批判を加へることによつて、大衆からの批判、叱責を大衆の意志として其の儘反映して居るか否かを検討して見たい。そしてより正しい方向への飛躍と、より強固な團結を以て世界の人民大衆との連繫を緊密に強化しなければならぬ。

◆第二號は内容が充實し、故郷の實情がよく分り、いろいろ考えさせられたと云ふ讀後感想を、數人の同胞から寄せられた。仕事に忙がしい方も、土地の都合

で雜誌もなく、地方新聞しかない處では、大いに参考になつたこと、喜んで居る。

◆本誌は更に飛躍前進して、内容は一層充實し、體裁もよくなつた表紙をタロコ峽にしたことや、數葉の挿繪を入れて、改郷の味(感じ)をつとめて出すことに工夫をした。これで幾らか故郷を思慕する念が湧けば幸ひである。我等は故郷に起きた些細な出来事にも敏感に頭に響く、靜かな、平和な、バナナの實る故郷、ピローの實のみのる故郷、これらの山岡風景や廟を挿入しておいたが、今も昔日の面影ありや無しや、日夜心配して居るものは編集者のみではあるまいと思ふ。

一九四九年十月十五日

臺灣研究會

連絡事務所 神戸市生田區相生町四ノ一五三

陳正興 方

RECEIVED

がある。何とかして砲火からまげられないよかと考へざるを得ない。總ては天命とは言ふもの、これだけ辛酸を嘗めても未だ前世の罪が償へないものか……

臺灣青年諸兄よ!! 黨派を考へる勿れ、我々は只々如何にして正に來らんとする砲火を、去らせべきかを考へて欲しい。更にこれを去らせしむるには如何にすべきかを考へなくてはならない。女々しき振舞を出す勿れ、人に任せたらよい、己一人ではどうする事も出來ないと考へる勿れ。更に疑ふ勿れ。物事の成就如何は、一人の努力の多少に比例する事は敢へて云ふ迄もないであらう。總ての私事は自分で解決せねばならないと同様に、臺灣の問題も必ず臺灣自身で解決せねばならないと思ふ。この解決の原動力は臺灣青年ではないか。さもなければ、臺灣も場合に依つては世界からシャットアウトされるであらう。その時になつて我々は何で臺灣に對する自覺を失ふぞ。筆者は敢えて、青年諸兄等に直言したのである。

一九四九年吉日

臺灣解放自由歌

一、親愛臺灣 錦秀山河

先烈的開發地

以汗以血 共同爭取

臺灣自由平等

親愛同胞 双全智勇

遠東的新光華

爲民爲國 一齊擁護

臺灣自由平等

二、親愛臺灣 四海謳歌

以信以義 團結推進

永遠世界和平

親愛同胞 民主前鋒

世界的東南風

爲弱爲小 同盟支持

永遠世界和平